第39號

千曲會報

昭和24年10月15日印刷
昭和24年10月20日發行

信州大学繊維学部
編集兼発行人　田町　城

信州大学繊維学部
社團法人　千曲會
発行所

〔非賣品〕

上田市原町
印刷人　中沢　正

上田市原町
印刷所　中沢印刷株式会社

上田繊維専門学校
單科大學昇格運動の顚末

一、本校單科大学昇格運動の趣旨

繊維産業が我國經濟上に占める地位と使命とから觀て其進歩發達を圖るために此際重点的に且早急に繊維に関する最高の教育と研究とが出來る独立の繊維大学を設置することは新日本建設の途上寔に緊要なことと思う。

今回の斷期的学制改革期に際会し、本校年來の宿望であり又輿論である本校の單科大学昇格を念願し現在の機構性格を堅持することなく而も將來の発展性に富む独立の繊維大学への昇格を志し其目的達成によつて國家のため又斯界のため大に貢献すべく其実現に最大の努力をなすことが本校に職を奉ずる者並に關係者に課せられた義務であり又責任であると信じ、ひたすら其目的貫徹のために勇往邁進しようと決意したのである。



新館の偉容なる成り完成に近い

二、前半期に於ける昇格問題の經過

新制大学案の発表されたのは昭和二十一年の秋末であつたがそれが國立学校設置法として國会を通過したのは本年五月であつたから約二年半で法律化したのである。此処には便宜上二十三年二月迄を前半期とし其後を後半期として大学昇格問題の經過の大要を述べようと思う。

新学制案の全貌が略判明したのは二十二年二月であつたが本校では此月に新学制対策委員会を設け其翌三月には本校大学昇格期成同盟会が結成された。其後直ちに趣意書の作製、陳情、昇格費の調達などに着手したのであるが六月初旬の間に林長野縣知事、森戸文部大臣、G・H・Qなどに本校の繊維大学昇格について陳情した。

同年六月以後長野縣内の高等專門学校長会議、官立蚕糸専門学校長会議、官立三繊維專門学校長会議等が屢々と度々開かれ大学昇格問題に関する情報や意見の交換を重ねた。

長野縣内高等專門学校長会では六月に綜合の信州大学設立の趣意案を知事宛に提出したが内容は学校毎もあるから最初は單独昇格を願め二次的に綜合大学を結成する趣旨のものであつた。此案は其後縣当局や信濃教育会等でも檢討されたが何分にも土地遠く交通不便な長野縣の各地に散在する各学校を一つの綜合大学に統合することは甚だ無理であると云う理由で二十三年二月迄は遂に具体化するに到らず寧ろ各学校の單科大学昇格論の方が輿論的であつた。

官立農林專門学校長会議も屢々開かれたが文部省の方針が容易にきまらないために学校側の態度をきめることも出來なかつた。

三繊維專門学校長会議では二十二年五月次の二つの協定を結んだ。

1　現有の五科を含む独立の繊維大学昇格を期して互に共同戰線を張ること。

2　昇格費の共同募金に關すること。

三、後半期に於ける昇格問題の經過

二十三年三月十日金國高等專門学校長会議で文部省から始めて新制大学の具体案が示され且其の内容の指令があつた。

1　經費の節約上成るべく單科昇格を避け綜合大学、連合大学等を結成すること。

2　成るべく科の数を減じ教官は一二割増加の程度で立案すること。

終るに各学校の態度は文部省の希望に反し現在所有の科の数をへらすことなく單科昇格を望む案が大半であつた、かくては新制大学案の実施も覚束なしとし遂に一縣一大学主義が生れ且科の数も制限されることになつた。

三繊維專門学校では同年四月初に代表者会議を開き前半以來共に主張して來た五科單科大学昇格案を撤消し科の数や綜合と單科の何れを選ぶも各校自由となつた。

長野縣内の有志は既に前年來立案の綜合大学設置案が文部省の慫慂によつて二十三年三月に到り再び擡頭し本校を除く縣内七高等專門学校の意見は一信州大学の設立を望み縣当局

會員名簿をお求め下さい

會員の皆様の絶大なる御援助に依り戰後第一回の千曲會名簿を発行致しました、幹部が多数あります、幹部全員もれなく座右にお備え下さる樣お願い致します。

尚經費不足のため今後当分の間、名簿の発行出來る見込はありません。

代金一部　一〇〇円（送料共）

も亦此案を支持したが偖て十四日縣當局主催の大學設置準備委員會で本校の單科昇格の主張が認められ縣としては信州大學と纖維大學との二本建で進むことに決定した、又四月、六月及び十一月の縣議會で本校の單科大學昇格のことが三度確認議決された、尙同年六月には長野縣選出の參衆兩議員一同の會合の席上に於て此事が議決された。加之縣民全體の輿論は時日の經過と共に高揚し遂に二十四年三月十日に縣民大會が開かれ熱狂的に論議され更に翌十一日と十二日の兩日數十名の縣民が大擧上京して陳情した。

中央に於ては本校の單科昇格請願書が二十三年五月に參議院で七月に衆議院で採擇されて全國的に支持されるに到つた。

新制國立大學設置に關する所謂十一原則は二十三年七月に制定され其後一部を修正されたものであるが其中に一縣一大學の項があり又一綜合大學內の學部は他縣に跨ることが出來ないとか、國立新制女子大學を東西二箇所に設ける等の項目もある、本校が單科昇格を望む主なる理由は纖維大學設立の必要性地理的關係、信州大學參加の利害、將來の發展性、東京京都兩纖維專門學校との比較等の各項に亙るものであるが文部當局は常に十一原則を楯に取り例外を認めるためには本校の理由が尙薄弱であるとなし本校や國會の認めた意見とは全く對立した、然るに本校の主張は遂に二十三年十月に森戸文部大臣の容れる所となり本校の單科大學昇格申請が大學設置委員會に諮問されることになり單科昇格の前途に一大曙光を認め得るに到つた。此月に內閣の更迭があつて下條氏が文部大臣に就任された。本校が大學設置委員の現地視察を受けたのは二ケ月後の十二月であつたが其結果は單科大學としても昇格し得る資格が認められ尙下條文部大臣の支持もあつたので本校の單科昇格には略確實化したかの感があつた、然るに本年二月再び文部大臣の更迭があつて高瀨文部大臣が就任された。かく本校の昇格運動の途中一度ならず二度迄も文部大臣の更迭があつたことは極めて不運の現象と云わねばならぬ

大學設置委員會に於ける各學校の審査は三月半頃迄に終了したのであるが本校は文部省案の綜合大學參加を拒否した理由で秋田鉱專等の政策的のことを諮問したのである、之に對し設置委員會は答申書と審査報告書とを提出した答申書の方は本校の單科昇格は十一原則の一縣一大學主義に反するから綜合大學に參加するを可とし審査報告書の方は綜合大學の一學部としても亦單科大學としても共に資格があるとなしたので資格的には單科昇格が可能であるが政策的には綜合大學參加が妥當であるとしたものである。

國會の方は本校の單科昇格を認めて文部省案を修正したものが通過することは略確實と云う見透しがついた。國會を通過すればCIEの承認を得ることも可能らしく考えられたが若し萬一承認がない場合には時間的に國會で再修正する余裕がなかつたため國會修正の事前に於てCIEの承認を求めることにした。然るにCIEは大學設置委員會の答申案を認めたため國會でも單科大學の名は與えないが單科大學の實を與えると云う趣旨で結局信州大學の中に編入することに議決したのである高瀨文部大臣は衆議院文部委員會において委員の質問に對して左の線に答弁したのである

（速記錄）

特殊性と自主性

長野縣に於ける大學設置問題でありますが上田纖維專門學校を含めて一本の信州大學にすると云うことにつきまして上田纖維專門學校は非常に優秀な專門學校でありました特殊な纖維生産の地域にある學校でありまして今まで專門學校としては非常に優秀でかつ特殊性の多かつた學校であります。この度信州大學に參加してその纖維學部になるにつきまして御希望があつたわけであります。つまり信州大學の上田纖維學部となつた場合においてはまず第一にはその一般教養課程を特に上田校や秋田鉱專等の單科昇格の可否を大學設置委員會に諮問することになつた。其諮問の方法は全部異例で元來資格審査を性格とする設置委員會に對し、文部省自体が定むべき範圍

「中　略」

國立學校設置法案は五月中に兩院を通過し六月一日から實施されることになつた。過去二年半の宿題は一應玆に一段落を告げたが其の間波瀾重疊で難航又難航、幾度か難破の危機にも臨んだ、然し其都度全員のあらん限りの努力と外部からの最も有効適切な應援とによつて辛くも危地を脫して前進又前進、遂には國會をも動かし得る情勢を招來し得て新願成就の寸前迄進み實に紙一重とも云うべき微妙な差で本校單科昇格の目的を完遂し得なかつたことは實に遺憾千万であつた。然し本校としては敗れて悔なき敢闘をしたと云い得ると思う。其成果は本校が單科大學に進ずる性格を附與されたことであるが尙本校の主張を通じて纖維大學設立の必要性、本校の性格、使命、實力等に關し大いに輿論を喚起し又一般の認識をも深め得たことも亦軽視し得ない收穫であつて將來に於ける纖維大學の設立、本校の發展、等に寄與するところも決して尠くないと思う。此等の收穫は非凡な昇格運動があつて始めて獲られたものでこれなかりせば到底かゝる成果を擧げ得ないことは全國他校の例がよく之を証明して居る。かゝる成果を擧げ得たことについては幾多の理由があるが其中主なるもの二三を擧げれば、

1　本校の主張が正しく自ら大義名分が明らかであつたゝめに超党派的全國的の支持聲援があつたこと。

2　本校の熱意と努力

本校の單科昇格は全校擧げての要望であつたために途中度々甲乙の議論がかわされたにも拘らず其の都度單科昇格論が大勢を支配し敢えて統制を紊すことなく最後迄全校一丸となつて奮闘し得たのである。當事者は此全校の

を十分に尊重してもらいたい。こういう御希望であつたと存じます。大學設置委員會の答申の趣旨もその通りでありますから、文部省と致しましてはその線にそつて十分に努力して御希望にそうように致したいという考えであります。

熱意に應えるため全く我身を忘れ火と燃える愛校愛國の熱情を以て千辛万苦、百折撓まず万難を排して苦難の路を進み遂に目的地の寸前に達し得たのであつて眞に涙ぐましい努力に終始した。

3　本校卒業生の協力

熱烈な母校愛の至情から出發した千曲会員一同の協力と活動振りは實にめざましいものがあつた。就中会幹部連及び小林代議士等に於て然りである。或いは昇格運動の計画と實行に或いは昇格費の調達等に全く寧日なく當に最も積極的に而も如何なる難局に遭遇しても飽かも動搖することなく終始一貫目的達成のため最後迄奮闘したのである。創立四十年を閲する本校の大量卒業生の實力と傳統を誇る校風の感化とが如何に偉大なものであるかは此の運動を通じて如實に証明された。

4　各方面よりの聲援と輿論の力

本校大学昇格期成同盟会長井上市長を中心とする地元上田市の当局、市会議員、市民一同等の援助は勿論長野縣林知事、中村副知事、縣会議員一同就中宮島、小松、神谷、増沢、六川、中村等の諸氏、縣選出の衆參両議員就中植原、増田、降旗、小林、黒沢井出、今村木内氏等の援助の功は極めて大きく又斎戸元文部大臣、下條前文部大臣、野溝前國務大臣田中元文部大臣、矢野、松崎、高良等の衆議院議員、小林參議院事務総長等の示された好意と支援、又參議院の市川資料課長の実に到れり盡せりの斡旋、劃策、盡力等は中央に於ける昇格運動の中軸を成すものであつた。尚以上の中、植原氏は本期成同盟会の総裁として又下條氏は同名誉会長として特別に盡力された。其他各方面から寄せられた支持援助は一一枚挙に遑がない。

かくて本校の要望と主張とは最後には殆んど全面的に支持されて実質的には單科大学の資格を認められ、形の上では綜合大学の一学部として編入されたことになつたもので。云わば名実伴わない不自然な解決法であつた、果して然らばやがては矯正さるべきものでなかろうかとも思われる。然し当面する現実の問題は從來のいきさつを一切水に流し信州大学の他の学部と克く協調しひたすら内容の拡充整備に精進すべきである。今や特殊事情に成る五百坪の堂々たる新築本館は既に竣工して校庭の一角に威容を添えたが更に研究室の増築や図書の購入等の必要は焦眉の急を告げて居る。時局柄経済的に最も多難の秋ではあるが是亦各方面の同情と援助とを仰いで其の費用を調達せねばならぬ実情にある。

議会に於ける文部大臣の言明を具体化するために文部省の諒解の下に去る五月に林長野縣知事から文部大臣宛に左記内容の申請書を提出し文部大臣からは答弁の形式で内容を具体化することになつて居る。

1　一般教養課程を本校で課すること。

2　前項に関連し既定の二十講座に更に五講座を増して二十五講座とすること。

3　本繊維学部の性格を從前に還元するため繊維農業学科を追加すること。

4　本学部の研究を助長し且つ應用化するため現有の繊維科学研究所を官制化すること之に対する文部大臣の答弁は未済であるが第一項は既に実施中であり其の他の三項も文部大臣の言明に徴して実現可能のものと期待して居る。此の点切に文部大臣の善処を願う次第である。

信州大学繊維学部
発足と現状

前述のような幾多の紆余曲折を経て上田の繊維学部は茲に発新足を見た。綜合大学の一学部としてではあるが今回の新制大会にとり特に重点がおかれている一般教養課程―人文社会、自然等の科学―の教育を上田の一学部で実施出来るようになつたのは、矢張り文部省や大学設置委員会や國会等が上田の特殊事情や自主性を認めざるを得なかつた証據であると考えられる。茲には信大繊維学部としての現状を略記してみよう。

一、名称―信州大学繊維学部。四年制。現存している專門学校は信州大学上田繊維專門学校とよぶ。

一、学科及講座―○蠶蛋学科（蠶蛋及蛋体生理学講座、桑樹講座、蛋種及遺傳学講座、蛋桑病理学講座、繊維農学講座。以上五講座）○製糸学科（製糸学講座、製糸原料学講座、絹糸学講座。以上三講座）○紡織科（紡績学講座、機械学講座、繊維物理学講座。以上三講座）○繊維化学科―（尹然繊維化学講座、人造繊維化学講座、長分子化学講座、色染化学講座。以上四講座）以上の他学科目は講座に属さないものも多い。

定員―各学科共定員三〇名

一、学部長―上田繊維專門学校長伊藤武男博士が学部長の任命を受けた。

一、入学資格者―本年三月新制高校卒業生及旧制高校、專門学校一年修了者又はこれと同等以上の資格を有つもの。

一、入学試験―六月二十一、二、三の三日間上田及東京の二個所に於て筆答試験と身体検査を行つた。但し入学者決定の考査には筆答試験の他出身学校の内申書及進学適性検査を重要視した。

○入学式―七月十二日入学式を挙行した。

○始業式―九月一日、七月は休暇とし九月から授業を始めた。

○入学状況―上田繊專からの入学者は一二〇人で入学率は定員各学科三〇名に対し何れも超過し平均一、五倍であつた。

又上田繊專からの大学への入学者は二十一名で内二〇名はそのまゝ上田繊維学部へ入つた。此の中蠶蛋科からの入学者は一四名で最多であつた。尚受験者の少なかつたことは入学試験の時期が六月ともなり受験者はもはや出身母校をはなれ各家庭や職場に就いたことと、試験案内を見る機会が少かつた爲でもあつたろう。更に入学者の殆ど全部が長野縣人であつたことは本学部が日本の繊維大学ではなく、信州―（地方―の一学部にすぎぬのだとの狭い視野の世評の反映のようで、今更乍ら單科昇格の出來なかつたことは殘念に思われてならない。

○制帽、制服―制帽及徽章は從來の帝大形角帽である。襟章やバッチで各学部は区別されるであろう。

一、職員の移動―教職員として教官数名が新任されたが志賀教授の退職（郷里へ）以外は大なる変化なく、近く新制大学職員として発令されるものもあり、今後四年の後には全部大学職員として移行される筈。但し事務職員は数名が松本の本部事務局へ轉勤されたし今後も一部職員は轉勤の止むなきに至る模様である。

一、信州大学

信州大学本部は松本（駅跡）におかれた大学は医、文理、教育（男女師範及青師合体し長野分校と松本分校とに別れる）工、繊維及農の七学部から成り、教養学科課程（ジュニアーコース）は上田、松本（文理）及長野（教育）の三校に置かれている。

学長は文理大学長の務台理作氏、東北帝大元総長熊谷倉蔵氏等を縣側と協調して幾度か依頼の交渉を行つたが遂に不調に終り今日依然として目鼻がつかない。

一、繊維学部内新機構

事務的には学部長の下に事務長があり、此の下に庶務、会計及厚生補導等の係がある又他に本部の図書館と関連して学部に圖書分館があり分館長が出來る。

更に又之等学部の運営及事務を円滑ならしめる爲に、特に厚生補導委員六名が選ばれて從來の教務課及学生課の運営の大綱を決めることになつた。尚從來の各科の科長制を廃して各科主任をおき――過渡期に於ては專門の五科の他に文科、理科の二科を加えた―学科と学部又は学部長との連絡交渉等の任に当ることにした。尚図書分館には図書委員会をおき図書館運営の大方針を決めることになつている。

一、建物の新設及施設拡充

(1) 本館の新設―千曲会館の北側、道路の南側には木造二階建、上下延五〇〇坪の大本館が増設せられ落成の日も近い。之は学部長室その他一般事務室の他教養学科所属教官の教室に当てられる予定である。

(2) 旧本館の方は全部学生の教室や集会室等に変更される。

(3) 従来のグランドの方へはテニスコートが移されたし、野球場や陸上競技のトラック、バレー、バスケットの施設が完成される筈である。

(4) 別所寮―別所温泉常楽寺境内南側の地に職員厚生施設として晋等の寮、別所寮(仮名)が新設さた。千曲会員も利用せられ度い。

一、学制改革対策委員会―大学昇格を目標として校内では対策委員会を早くから組織し学科、講座、学科目、職員、其の他昇格に伴う一切の対策や大学設置認可申請書等を作製し、殊に單科大学昇格の爲に最善の努力を尽した。

一、大学開設準備委員会―大学開設に関しては教授会をもつて全般に亘つての決議機関であることとし、此の爲に対策委員会を解消し、更に開設準備委員会を組織して新発足に遺憾なきを期している。

一、昇格期成同盟会―上田繊維専門学校の單科大学昇格要望は種々の点から必ず達成せらるべきであるとして、同窓会、長野縣、上田市、東京有力者、政治家等に協力を願うこととし上田繊維大学(單科大学)昇格期成同盟会を組織して活動した。

御報告申上げて、現下我國の科学の振興に対する重大なる使命の一端を御推察を願い度いと存じます。

一、わが國の科学者の内外に対する代表機関として、連絡委員会を設けて、内外の学会と連絡を図つていること。

二、科学研究費の配分、大学法案の審議、研究施設及教育施設の整備、統合、拡充、研究成果の発表を有効適切ならしめる方策、民間研究施設に対する國庫補助、学術研究のための寄附金への課税の免除、経済九原則に即應する科学者及び技術者の活用方策、科学研究成果の実用化の促進策、産業再建に必要な文献機械器具の輸入促進、國宝及学術資料の調査保存、特許権の問題、特殊技能者の待遇問題、研究機関の査定、研究公務員の職務検討等の各般に亘つて廿一、二の委員会を設けて、研究し、之を施策に移している。

三、行政面に科学を反映せしめるために、中央に設置された科学技術行政協議会に十二名の委員を送つて、本会議の施策を國政に移すことに努力を拂つている。

四、科学の振興策、科学を産業又は國民生活上に反映せしめる方策、その他の重要事項に関して、政府の諮問に應答し、且つ政府に対して勧告又は意見を具申する。

以上は本会議か総会、部会、委員会などを通して行つた重要事項の一端を申上げたのであるが、日本学術会議の組織及性格が世界に率先して設立された関係上、万國は本会議の効果に対して多大の關心を以つて瞠目して居る有様である丈けに、本会議の責務や益々重大といはねばならぬ。

尚蚕糸関係に於ては、その選出された我々六名の会員をバックするために、蚕糸学術振興協議会を設立して、着々とその効果を挙げようとしている。冀くは千曲会々員各位が一層学術会議に対する認識を深めると同時に、陰に陽に絶大なる御支援を御願し度い次第であります。(以上)

日本学術会議の使命と施策

蒲生俊興

日本学術会議が本年一月二十日に発足してから、既に八ヶ月は経過致しましたが、その間、同会議が採りました各般の施策の梗概を

皇太后陛下本學部に御巡幸遊ばさる

皇太后陛下本学部に御巡幸遊ばさるとの御通しに接し全教職員、学生は感激こめて準備に遺憾なきを期して御待ち申し上げた。

七月十九日午前十一時、降りしきる雨の中を本学部に御着になられ一旦校長室に御入りになり伊藤学部長よりの言上を御聴取遊ばされ学部教職員、学生、千曲会員、蚕糸業関係者教職員家族等の歓呼と万歳の中を学部長の御先導で台覧場(講堂)に御成りになり御興味深く御台覧を賜りし後、蚕蛾学科蚕室にて各種の飼育方法を御観察、続いて蚕体生理学実驗室に於て蒲生教授の超短波の研究を御観察、次に製糸学科の製糸工場、煮繭状況、太糸繰糸研究等を御覧遊ばされ、続いて紡織学科の紡績、機織等の状態をいちゝ〳〵叮寧に御覧の後、繊維化学科に向わされ奥教授研究室に陳列せる繊維化学の研究を御覧の上再び校長室に御入りになり御軽食を御取り遊ばされ、午後一時廿分御召車にて再び万才の嵐の中を本学部出御遊ばされ、小縣郡縣村の稚蚕共同飼育所に向わされた。

皇太后陛下には雨中をも御いといなく少しも御予定を御変なく極めて御熱心に御観察遊ばされ一つ〳〵丁寧に御下問を賜り遂に二時間御滞在の御予定を御延しになる程であり教職員、学生一同恐懼感激し永く此の光栄を胸にして精進することを誓つた。

蒲生教授學術會議會員に當選す

日本学術会議会員選挙に際し母校教授蒲生俊興博士が日本蚕糸学会並に日本遺傳学会の推薦により全國区より立候補され見事当選せられた。同窓生各位より寄せられたる絶大なる御支援に対し謹しんで感謝し御礼申し上げる。

尚蚕糸関係よりは全國区選出委員として蚕糸試驗場長平塚英吉博士、農林省蚕業課長横山忠雄博士、東京繊維専門学校長木暮楓太博士、京都繊維専門学校教授山科義置博士が、地方選出会員として片倉蚕業研究所長小針喜三郎博士が夫々当選せられた。

大學本館等建設に就て

会員諸兄の絶大なる御配慮によりまして昇格資金も或る程度目鼻のついた昨年七月に昇格期成同盟会では大学として必要なる施設の設置に付準備会を開催し、建設規定の設定建設委員の委嘱実務担当者としての建設事務局の設置をなし昨年八月には第一回建設委員会が開かれ拡充すべき施設等について大綱が決定せられ之が具体化に関しては常任委員会へ委ねることゝなり、昨年九月、十一月、十二月の三回に亘り建設常任委員会を開催年次別拡充計画の具体化に付き検討の上、第一年度に於ては最初に大学本館を新築することに決定し、これより競争入札の結果株式会社藤田組に落札し昨年十二月二十一日に起工式を挙行、今月中には完成する運びになつて居ります。新営本館は工形木造二階建瓦葺の延五〇〇坪の建物で母校に威容を添えるものであります。

本学部長決定す

本繊維学部長として現校長伊藤武男博士が発令され(五月三十一日附)上田繊維専門学校長を兼任することになつた。

新任職員

木内 修一教授 東北大学工学部より本学部教授として着任、理学博士 繊維物理学担当

朝倉保平助教授 富山高等学校教授より本学部助教授に、独逸語担当

西川竹彦助教授 松尾高校教諭より本学部助教授に、哲学担当

安東廉藏助教授、霞浦農科大學予科教授より本學部助教授に、數學担當松尾高校教諭兼上田繊專講師より本學部助教授に、英語担當

中村六男助教授

八木　誠政教授　東京文理科大學講師より上田繊維專門學校教授兼本學部教授、生物學担當理學博士

信大繊維學部開學
上田繊專四十年
本館落成
記念式御案内

拜啓　時下秋涼の候愈々御多祥の段賀し上げます。

陳者母校大學昇格問題に關しましては格別の御配慮を蒙り、又多額の御寄附に預り誠に有難く感銘に堪えません。

就ては**來る十一月三日午前十時より母校講堂に於て表記記念式を擧行**致しますから何卒御臨席賜り度く此段御案内申上げます

追て會員の御寄附者に對しては此記事を以て御招待に代えますから惡からず御諒承願います。

尙準備の都合上御出席の有無を十月末までに本會宛御通知下さい。

土屋久雄助教授　志賀教授の後任に、上田繊專助教授として着任、体育担當

髙木春雄助教授　東京工大應用化學科卒上田繊維專門學校助教授として着任

細谷憲次郎事務官着任

松原事務官の後任として細谷事務官が本校事務官として着任した（三月五日附）

昇格資金募集に就て

昭和二十二年九月本會支會長會議を開催し本問題を議題として會員から全會員數の七割に當る約弐千名の會員より平均壱千円宛合計弐百万円の御寄附を御願いする計畫に決まりましてより理事會、役員會、支會長會議、總會等數多の會議の都度本問題が議題に上りまして居ります、どうしても會員諸兄のいま一段の御奮發に俟たねばならぬ狀況で、各支會長宛にも度々御願い致してありますが最近の支會長宛依賴狀の一文を左に掲げ皆樣にも御了承願い御多用中乍ら此の際是非御拠金方を御配慮願いまして右依賴狀にあります通り十一月上旬の定期總會へ御出席の者に御持參願うか又はそれ迄に御送金願う樣にして昇格資金募集の件は此の時期を以て一区劃をつけようと云う訳ですが、宜しく御含み願いまして御盡力を御願い致します。尙御承知のことゝ存じますが卒業年次別寄附標準額を左記致しました。それから御送金の際は、振替口座長野第六弐四壱番を御利用下さいまして昇格資金なる旨並に卒業回數を記載の上振込まれます樣御願い致します。

記

標準額	卒業回數
三、五〇〇円	一―五（蚕糸）
三、〇〇〇	六―一〇
二、五〇〇	一一―一五
二、〇〇〇	一六―二〇
一、五〇〇	二一―二五
一、〇〇〇	二六―三〇
五〇〇	三〇―
三、〇〇〇	一―二（紡）
二、五〇〇	三―七
二、〇〇〇	八―一二
一、五〇〇	一三―一七
一、〇〇〇	一八―二二（化）
五〇〇	二三―（繊農）

圖書寄贈募集

母校も愈々新制大學として發足し去る九月一日開講の運びとなりました。母校の内容は教授陣に於ても設備に於ても全国新制大學中最優秀の部に屬していますが圖書設備の点に於て稍不滿があります（特に教養方面）新制大學が旧制大學に伍して行くには此の三者の内容の完備が必要であります。三年後には又内容の再審査があつて之にパスしてA級になつて始めて名実備つた（旧制大學の仲間入りの出來る）大學として認められることになつています。過日の新制大學審査会で母校が指摘されたのは右の様な圖書設備の不足でありました。此の点に就て本學では三年後の再審査に備えて鋭意拡充に努力していますが現在割當てられている極めて僅少な文部省の予算では急速な拡充を行うことは到底不可能であります。此の拡充に同窓各位に一役買つて戴いて手持ち圖書の積極的な御寄贈をお願いする計畫を建てたのであります。本學の裏情を御諒察下さいまして圖書館の内容拡充完備のため絶大な御援助を会報紙上を拜借してお願いする次第であります。

敬白

寄贈希望圖書

一　宗教　教育　哲學
二　語學　文學　藝能
三　社会　風俗　産業
四　歷史　地理　五　法政　経済
六　博物　数學　七　理學　工學
八　蚕糸学関係　九　その他全般

以上挙げましたがお手持ちの図書何でも結構でありますから多数御寄贈願います尙近來同窓生諸氏が本學圖書を利用されることが增加致しました。各位の多数御利用をおすゝめ致します。

月　日

信州大學繊維學部圖書分館

同窓生各位

本會第九回定期總會開催

昨年十一月十四日本會第九回定期總會を開催した処本支會の運営問題並に之が資金募集等、問題山積せる折柄とて北信、安筑、龍川等地元支會を初め東京、群馬、福島等二十六支會の各代議員約五十余名の出席を得て午前十時開會。中沢理事長の開會の辞に始り伊藤名誉會長の挨拶の後、野口理事の會務報告、蒲生昇格実行委員長の昇格問題経過報告あつて、斎藤菊雄氏議長席につき議事に入り午後六時迄慎重審議され盛會裡に閉會した。本總會に於て報告、議決並に承認せられたる事項は左の通りである。

一、現在會員

正會員	蠶糸科卒	九七六名
	製糸科卒	九〇九名
	紡織科卒	四六〇名
	繊維化学科卒	二一二名
	繊維農業科卒	八七名
	專修科	五〇名
準會員		二七四名
合計		二、九一三名
外に死亡會員		四六二名

昨年十一月一日以降現在迄の死亡會員
戰死 一五名　死亡 一〇名
合計 二五名

二、新役員（括弧内は分担事務を示す）
（順序不同）

理事長　中沢　忠
理事　上野　柴仁　小林　運美
小宮山太助　安川　寛
宮城　博　富岡　秀
野口新太郎（總務）
小松忠一郎（資金）荻原清治（會員）
窪田　潤（會計）
山口定次郎（學術）
中島　巣清（庶務）
町田　博（會報）
坂口　育三（勤勞）

監事　猪坂　直一　笠原　正巳
櫻井　隆夫　高木　三治
八木　誠政

評議員
味沢　泰造　稲田　実
矢沢茂登一　岡部　彌平
石坂虎次郎　笠原　義人
勝又　藤夫　唐沢　正平
北沢　茂　合田　信一
小平　光雄　岸　勝彌
香掛　祥平　清水　良一
白沢　幹　宮島　重一
高木　信雄　竹内　孝三
柳沢　忠治　加藤秀次郎
野崎　清　橘諧　英雄
牧　道男　松村　季美
滝沢　芳樹　原　相模
湯原　諄　和田　晋
川船　卓爾　川久保　元
相談役　蒲生　俊興　倉沢　美徳
林　貞三

尚事務の進渉を図る爲、定款に規定はないが參事及幹事を不文律に設定し校内若手同窓職員に事務の分担を願うことになつた。
參事及幹事は左の通り
1參事（順序不同、括弧内は分担事務）
松尾　卓見　飯田　一郎
関　博夫　以上（学術）
大滝　吉郎　小林　尚一
以上（勤勞）
竹田　寛　白井　美明
阿久津伊平　山崎　誉錄
以上（會報）
2幹事は相談役、理事、參事を除く校内若手同窓會員

三、昭和二十三年度決算に就て

物價昂騰の爲收支つぐはざる爲不足分二万七百円を借入金に依る追加予算を事後承認の形で本總會に計りたる処明秋挙行せらるべき母校四十週年記念の際に更に總會を開催し右借入金の返済に関する追加予算を提出承認を得ること並に會費の値上に付再考することの附帶條件附で承認さる。

昭和二十二年度決算左の通り

收入

一、財産より生ずる收入		二、五二三、〇〇〇円
二、繰越金		四五二、六八
三、雜收入		四〇〇、〇〇〇
四、入會金		二、八九七、〇〇〇
五、會費		八、二九四、八〇〇
六、寄附金		一五、二八三、〇〇〇
七、一時借入金		二〇、七〇〇、〇〇〇
收入合計		五〇、五五〇、五二

支出

一、會議費	三、三八五、五〇円
二、事務所費	三七、六〇八、五九
三、事業費	八、九〇九、二四
四、基本財産造成費	三〇〇、〇〇〇
五、次年度繰越金	三四七、一九
支出合計	五〇、五五〇、五二

四、昭和二十四年度豫算に就て

本件に就ても予算額が少きに失するを以て必要に應じ總會を開催、追加予算を上提することの附帶條件附で承認さる。

昭和二十四年度予算左の如し。

收入

一、財産より生ずる預金利子	二、五〇〇円
二、前年度繰越金	五〇〇
三、雜收入	八一〇
四、入會金	一二、〇〇〇
五、會費	一五〇、五〇〇
六、寄附金	二〇〇、一〇〇〇
收入合計	一八六、四一〇

支出

一、會議費	一五、五〇〇円
二、事務所費	五九、一〇〇〇
三、事業費	七九、一〇〇〇
四、基本財産造成費	一二、三〇〇
五、會費納入交付金	一七、〇〇〇
六、研究費補助	一、〇〇〇
七、予備費	二、五〇〇
支出合計	一八六、四一〇

五、會費徵收に就て

會費徵收経費の節減と會費納入の円滑を期する爲支會所属會員の納入すべき會費總額の七割を各支會の責任額とし其の支會に於て右責任額を一括本部へ納入することに決議さる。從つて今後會費徵收は支會を対象とすることになつた訳であるから御承知を御願い致します。

六、昇格問題に就て

蒲生昇格期成実行委員長より諸兄の御努力並に各方面の御協力に依り母校の單科繊維大学としての昇格は明春大学設置委員會の議に付せられることになると共に一面大学としての必要施設の建設関係も順調に進み居る旨報告労々感謝の挨拶があつた。

七、昇格資金募集に就て

林資金募集委員長より経過報告あり今後の募集方法に付協議の結果、曩に本部より各支會別に割当られたる額を各支會に於て再確認の上之が募集方一段と努力することに決議さる。

八、東京に本會事務所設置に就て

東京に事務所設置に就ては全員賛成なるも之には資金も必要なるに付本部と東京支會とに一任の上研究を願うことに決議さる。

九、支會の組織に就て

會員が年々増加するに付之が連絡を密にする爲支會の都合により部會制を設くる必要があると思わる場合は部會制を設くるも差支なきこと。但し此の場合は定款規定の通り本會の理事會の承認を得ること。尚東京支會の如きは山梨、千葉を各々分立せしめ独立の支會と爲すべきで斯る状況の支會に対しては本部より之を慫慂することに決議さる。

本會定期總會開催御通知

昭和二十四年九月八日

社團法人千曲會理事長　中沢　忠

支會長殿

拝啓時下益々御清昌の段賀し奉ります。

陳者八月十日附を以て昇格資金募集方御依頼申上げました処益々母校では来る十一月上旬頃新営本館落成式典門学校四十年紀念式大学昇格式等の祝典を挙行する機運に付本会定期総会も其期に開催することに決定致しました（之が日時は確定次第御知せ致します）就ては来る十月中旬頃迄に貴支会の総会を開催し拠金の件を協調して頂く等の方法により会員は勿論最寄の関係業者からも出来る限り御醵金を願う様一段と御配慮願いまして右定期総会へ御出席の際に御持参願うか又はそれ迄に御送金願う様にして昇格資金募集の件は此時期を以て一区劃をつけたいと存じます。

御多用中甚だ恐縮乍ら右御諒承下され宜しく御依頼申上げます。

敬具

『信州大學新聞』の誕生

学生の手による新聞

母校の校友会が学生自治の運営に成つてから文化部に新聞班なるものが約三十名の班員をもつて生れて以来、月刊予定にて発刊されているも幾多の困難に遭遇しているらしく、先輩にも是非読んで頂きたいと懇願している。会員諸兄の御購読を同班に代つて御願いする内容は学生生活、学生の見た繊維学界、繊維業界の記事でもり校内先生の研究発表を始め校外からも研究発表などが寄せられ又四頁版の中第四面を一頁は千曲会だよりとして、先輩訪問記の如き各位の消息等載せられています。信州大学新聞社宛に葉書を下されば早速現物見本を送るそうです。

新支會の誕生

旧北信支会は従来支会随一の大世帯の為老若一堂に会するは仲々の至難であつた為、昨年来の臨時総会に於て之を発展的に解消して佐久、上小、更埴、北信の四支会に分立することに一決し、上小支会（支会長、小宮山太助氏）佐久支会（支会長山崎保太）更埴支会（長小山俊吾氏）北信支会（長、柳沢忠治氏）の四支会が創立せらる、尚北奥千曲会より北海道を地域とする北海道支会（長、田附由治郎氏が独立す。

退職並に榮轉職員

志賀教授退職

本校体育の教官として昭和十二年着任以来十余年間本校のために御尽し下されたが家庭の事情にて退職せられ郷里山形市に帰られた。永年の御労苦を深謝す。

松原事務官榮轉

昭和二十一年以来母校に勤務せられた松原事務官は今度北海道第三師範学校事務官に栄転された。本校の為に長らく御努力を賜つた労苦に深謝し併せて今後の御多幸を祈る。

（二月二十八日附）

母校代表電話番號の變更

今度母校の電話番号が次の通り変更になりました。

上田一二一六番　公用（宿直、交換台）

上田一二一七番　会計課

上田　五九一番　庶務課

上田　四三三番　校長宅

上田　三九二番　生理学教室（蒲生教授）

母校昇格資金醵出者

（八月卅一日現在）

（頭書数字は分納回分）

金参万五千円也　㈢福島支会同窓

金四万八千七百六拾円也　川船　卓爾　山田　斧一

金壱万円也　中沢　忠　校内職員同窓

金五千円也　石坂虎治郎　荒井　猛

横山　宗治

金参千五百円也　栃木支会同窓

上野　栄仁　宮田鉄五郎

金参千円也　星野　拓弘　小林　良亘

根岸丑之助

金参千六百円也　校内三蚕化成同窓

金弐千五百円也　秋山　利夫　手塚芳太郎

金弐千四百円也　校内不二蚕糸同窓

金弐千円也　岡本　栄一　赤松　與一

高木　三治

金壱千七百円也　㈡黒沢袈裟彦

金壱千五百円也　福島鋼治郎　林　秀門

永井　俊郎　織田　博

上兼　之有

金壱千弐百円也　和田　晋

金壱千百七拾円也　㈡秋山武一郎

金壱千百円也　㈡島根支会同窓

金壱千円也　㈡馬場　長市　櫻井　汎

小山　惠治　岸　益吉

土屋　孝　今井　武四

好木　泰造　岡部　彌平

庭野明之助　田口富五郎

白井　要範

㈡鈴木　敎吾　鶴田　定平

㈡安川　寛　高須　兵司　㈡福島網治郎

内山　秀穂　清水　衛敏

勅使川原保　青木永次郎

稲田　実　㈡遠藤　文平

太田愼一郎

槻原　春彦　塩入　國治

金八百円也　㈡中田　太郎　中島　茂　㈡織田　博

金七百九拾円也　中村登一郎

金七百五拾円也　小林　龍太

金七百円也　㈡福島　喜藏

金五百円也　浜井　譯夫　齋藤榮太郎

櫻井　寿男　入佐　一郎

秋山　二郎　村井　三郎

岩切　作次　田口　嘉彦

中山　吉二　山本幸四郎

福富　繁　飯島　正胤

山崎　修也　川合　信夫

竹内　寅太　小林　信夫

宮城　博　岩井　実

堀米　吉美　西田　謙三

島田猪一郎　竹重　爲彦

山口　高志

金四百八拾円也　㈡福田　六郎

金四百円也　㈡的場　小六　小野沢栄次

金参百弐拾円也　㈡西井　茂雄

金参百円也　㈡黒沢袈裟彦　㈡小林　進

㈡吉田　俊文　㈡西本　朝平

遠藤　文平　村上龜久司

安川　寛　市瀬　武壽

田村喜久雄　福島　喜藏

昼野　荘次

金弐百六拾円也　㈡千葉　達人

金弐百五拾円也　丸山甲子男　山口　好雄

和田　一武　㈡池田　滋

㈡永井　覚　小管　貞三

金弐百円也　㈡黒岩　覚　㈡柴田　久

菅野　喜通　㈡斎藤　調

佐藤昭八郎　㈡福場小四郎

㈡田中　熙傳　倉元　隆太

浜武八男　鍵谷　孜

兒玉　新一

金壱百六拾円也　㈡尾崎　㈡山本　孝三

金壱百五拾円也　永井　千治

金壱百四拾円也　㈡目崎　正雄

金壱百弐拾円也　山田　良人

㈡荒井　潮

浜　香三

金壹百円也　湯本徳次郎　(二)宮原　英俊

(二)金井　保　塚本　優　岩下　龍哉　宮原　豊　日幡　映一　山浦　忠　堀口　友治　橘本　博　安田　辰乙　高橋　英　須田國之助　森高　守成　平野　庄一　内田訓之亮　(二)塚田　和磨　(二)加藤　睦正　金六拾円也　(二)岩崎　俊夫　金五拾円也　吉田　俊文　林　新一　早野　嘉人

合計　拾九万四千八百円也
累計弐拾六万弐千八百九拾円也
訂正

金弐千円也　合田　信一
金壹千円也　合田　信一

本業年次別標準に依る寄附者に對しては記念品を献納を贈呈する豫定であります

寄附金納入者（会費補充）

金百円也（昭和二十四年度分）

佐藤良太郎（壹二）　皆川　二郎（壹二）　立岩　笑保（ノ三）　斎藤　格次（ノ三）　榊原鶴次郎（ノ四）　永田　平（ノ八）　荒牧伊勢美（ノ五）　原田　種麿（ノ九）　斎藤　菊雄（ノ六）　大谷内三衛（ノ二）　丸山　十吉（ノ三）　堀川　收（ノ三）　市瀬　武馨（ノ三）　伊藤　幸男（ノ三）　織田　博（糸一）　塚田　鎮麿（糸二）　岡部　彌平（ノ三）　橘本　景吉（ノ四）　鈴木　教晉（ノ八）　坂路　善一（ノ二）　是石　春男（ノ四）　角幸　趙夫（ノ五）　宮坂美壽雄（ノ六）　長場　長市（ノ六）　矢野　柴雄（ノ七）　山田　良人（ノ八）　関　幸雄（ノ八）　高田　正氣（ノ五）　高橋　登（ノ三）　巣山　喜吉（紡二）　内山　秀穂（代五）　牧田　轟雄（農一）　山口　修弘（農一）　櫻井　周一（ノ三）

金百参拾円也（昭和二十三年度分）

小林　顯（壹四）　篠原　定雄（壹四）　小林小一郎（糸四）　佐藤　三次（糸四）　山本幸四郎（紡六）　山口　修弘（農一）　金九拾弐円也　大塚　浩（紡七）

金百円也（昭和二十三年度分）

浦生　俊興（壹一）　花岡　作彌（壹一）　倉沢　美徳（ノ二）　林　新一（ノ二）　須田　圭二（ノ二）　中沢　勝也（ノ二）　飯島　正胤（ノ二）　立岩　笑保（ノ二）　小川　保（ノ二）　岸　勝彌（壹三）　栗林　悦（ノ三）　寺島　親雄（ノ三）　久保田正樹（ノ三）　榊原鶴次郎（ノ四）　小林　輝一（ノ四）　長瀬　深見（ノ五）　斎藤　菊雄（ノ六）　山本岩三郎（ノ七）　田口富五郎（ノ九）　永田　平（ノ八）　丸山　十吉（ノ三）　安川　憲（ノ三）　荒井　猛（ノ三）　宮城　博（ノ三）　倉沢一二三（ノ七）　山下　忠雄（ノ三）　倉元　隆太（ノ一〇）　茅野　功（ノ九）　坂口　育三（ノ三）　傳田　靜夫（ノ三）　竹田　寛（ノ五）　星野　荘次（ノ四）　岡田　盛雄（ノ五）　小泉　崇平（ノ五）　大久保孝一（ノ九）　荻原　孝三（ノ五）　上野　義一（ノ九）　田中　光雄（ノ六）　小沢　賢治（ノ五）　船田　敏夫（ノ五）　堀内　清（ノ三）　山中　明（ノ）　清水　猛（ノ三）　百瀬　久（ノ三）　堀内　彬明（ノ三）　芦谷　鉄郎（ノ三）　金井　保（ノ四）　中山　員雄（ノ）　中沢　忠（糸一）　田口　敏夫（糸一）　織田　博（ノ）　依田　信一（ノ）　細川　三郎（ノ）　宮田鉄五郎（ノ一）　田浦　準（ノ）　矢田部忠吉（ノ）　林　貞三（ノ三）　三木　三治（ノ三）　岡部　彌平（ノ）　竹内五之助（ノ）　久保田嘉一郎（ノ四）　橘本　景吉（ノ四）　手塚芳太郎（ノ五）　青木永次郎（ノ）　鈴木　教晉（ノ八）　三浦　重雄（ノ七）　黒岩　覺（ノ九）　西　孝重（ノ）　竹内　健二（ノ一〇）　大谷　勇（ノ）

川船　卓爾（ノ）　窪田　潤（ノ三）　荻原　清治（ノ）　手塚　政吾（ノ三）　小口　英一（ノ）　土屋　孝（ノ三）　角幸　趙夫（ノ三）　井上　保雄（ノ）　笠原　正已（ノ）　柳沢　栄一（ノ一七）　西田勇三郎（ノ一六）　吉井　鼎（ノ）　宮坂　栄（ノ八）　越　英暢（ノ）　荻原　行雄（ノ一〇）　高田　正氣（ノ三）　竹重　儁彦（ノ三）　和田　正（ノ）　米山　達雄（ノ）　平林　勇（ノ三）　吉池　正行（ノ）　寄入　廣司（ノ）　清水　智英（ノ）　杉崎　義朗（ノ）　山崎　要（ノ三）　小林　良直（紡二）　野口新太郎（ノ）　河西　尚一（ノ）　小松忠一郎（ノ三）　橘詰　英雄（ノ四）　福島　虎（ノ一六）　金井　忠義（ノ一七）　北崎　嘉熊（紡八）　中村登一郎（ノ九）　臼田　隆夫（ノ三）　寺西　德夫（ノ三）　天野　六彦（ノ三）　小林　清茂（ノ三）　田中　栄二（ノ）　小田　倫平（ノ）　嘉ノ海彦義（ノ）　斎高　俊成（ノ）　米田　繁一（ノ）　中村　長章（ノ）　内山　秀穂（化一）　松崎　滋（化五）　樋口　昭（ノ五）　手塚　俊男（ノ）　坂口　子平（ノ）　巣山　士行（ノ）　長峰　豊美（農一）　牧田　轟雄（農一）　井元　曉（ノ）　斎藤　格次（ノ三）　塩見　豊一（ノ四）　曾山　直高（ノ）　皆川　二郎（ノ五）　荒牧伊勢美（ノ）　原田　馨亀（ノ九）　大谷間三衛（ノ三）　内苑　駿吉（ノ一六）　雨宮　金雄（ノ一七）　市川　敏三（ノ一八）　堀川　收（ノ一〇）　斎藤　格次（ノ三）　堀川　收（ノ三）　市瀬　武馨（ノ三）　伊藤　幸男（ノ三）　鈴木　忠雄（ノ三）　有賀　文雄（糸一）　佐々木峰二（ノ二）　塚田　鎮麿（ノ二）　甲本　正道（ノ七）　好士　泰造（ノ八）　坂路　善一（ノ二）　渡辺　齊（ノ三）　是石　春男（ノ四）　宮坂美壽男（ノ六）　馬場　長市（ノ六）　矢野　柴輝（ノ七）

山田　良人（ノ八）　関　幸作（ノ）　志摩　哲夫（ノ三）　高橋　登（ノ三）　中島　利通（ノ四）　西沢　長夫（ノ四）　巣山　喜吉（紡二）　小山　成安（紡三）　飯塚　孝一（ノ六）　櫻井　周二（農一）　清水　好（ノ）　中岡　保雄（ノ）　武舎　武雄（ノ）　小泉　郁雄（専修）　吉池　昭三（専修）

金五拾円也（昭和二十二年度分）

西田勇三郎（糸六）

金四拾六円也（昭和二十二年度分）

桐生　義文（壹九）

金参拾円也（昭和二十二年度分）

浦生　俊興（壹一）　鶴田　定平（壹一）　倉沢　美徳（ノ二）　栗林　悦（ノ二）　飯島　正胤（ノ二）　小川　保（ノ二）　須田　圭二（ノ二）　岸　勝彌（ノ三）　寺島　親雄（ノ）　中沢　勝也（ノ）　久保田正樹（ノ）　榊原鶴次郎（ノ四）　長瀬　深見（ノ）　栗原　章（ノ五）　山本岩三郎（ノ七）　永田　平（ノ八）　池田正五郎（ノ二）　山口定次郎（ノ三）　宮前　邦雄（ノ三）　安川　寛（ノ）　北島　正生（ノ）　宮城　博（ノ三）　平野　秀男（ノ五）　小平　光雄（ノ三）　永井　勝来（ノ四）　宮崎　秋雄（ノ）　兒玉　信尊（ノ五）　片山　次夫（ノ）　北原　喜昌（ノ七）　田口　堯平（ノ）　中沢利三郎（ノ）　橘本　博（ノ）　酒井　嘉美（ノ）　宮堀　俊雄（ノ）　北條五郎右衛門（ノ）　西沢　重光（ノ）　西原　諄一（ノ）　田穂　稔（ノ）　細川　豊（ノ八）　六川忠一郎（ノ）　古川　正美（ノ）　坂口　正信（ノ）　細川　俊雄（ノ）　宮崎　岬（ノ九）　沓掛　久雄（ノ）　宮川千三郎（ノ一〇）　瀬窪　正慶（ノ一〇）　牧　道男（ノ）　秋山　俊雄（ノ二）　鈴木　正悟（ノ）　町田　博（ノ）　坂口　育三（壹三）　鈴木　茂（ノ）　浅川　茂樹（ノ）　青木　深（ノ）　古平　義雄（ノ）

白土孫七郎（〃）　山岸政治（〃）
渡辺嘉博（〃）　水野義雄（〃）
竹内好武（〃二三）　関博夫（〃）
山内一次（〃）　横沢正雄（〃）
久保田不二夫（〃）　宮下弘（〃二四）
磐月藤夫（〃）　堀口友治（〃）
堀口勲（〃）　内藤康三（〃）
清水良一（〃）　塚田典次（〃）
岡田撤雄（〃二五）　滝沢昌一（〃二六）
宮沢傳（〃）　長谷川政雄（〃）
小山長雄（〃）　今井省吾（〃二七）
菊地六郎（〃）　荻原幸三（〃）
神崎聖徳（〃）　小泉恭平（〃）
目崎正夫（〃二八）　松尾卓見（〃）
中島正已（〃）　手塚逸郎（〃）
牛田孝康（〃）　外村吉高（〃）
秋馬驷平（〃）　上野義一（〃二九）
大滝吉郎（〃）　古平嗣紀（〃）
鶴田英彦（〃）　今井喜八（〃）
大久保孝一（〃）　中島英男（〃）
柿崎泰彦（〃）　矢川寛一（〃）
片山文一（〃）　阿曾英二（〃）
宮下勲次（〃三〇）　両角肇治（〃）
塩入勤（〃）　山口明（〃）
西川正徳（〃）　山中秀一（〃）
田中泰久（〃）　荒井漸（〃三一）
鹿瀬幸男（〃）　丹羽久幸（〃）
川島守（〃）　柳沢新一（〃）
柿原修（〃）　田島政三（〃）
牧野嘉紳（〃）　松沢順平（〃）
島田猪一郎（〃）　鈴木忠雄（〃三二）
宮下久吉（〃）　宮原豊（〃）
竹内彦保（〃）　伊藤文男（〃）
柴田正見（〃）　田島伸人（〃）
中西晶（〃）　中原武（〃三三）
兒玉郁郎（〃）　宇治川喜平（〃）
小松章一（〃）　杉坂輝夫（〃）
芦谷鉄郎（〃）　大森文作（〃）
佐藤良夫（〃）　堀内彬明（〃）
相沢恒雄（〃）　山浦俊美（〃）
武井志郎（〃）　鈴木公人（〃三四）

松本光夫（〃）　高橋保雄（〃）
三輪久利（〃）　田口敏夫（系一）
依田信一（〃）　細川三郎（〃二）
田浦準（〃）　矢田部忠吉（〃）
高木三治（〃三）　林貞三（〃）
竹内五之助（〃）　久保田嘉一郎（〃四）
井上一郎（〃五）　隅山專三（〃六）
三浦重雄（〃七）　鈴木敬吾（〃八）
富田庄三郎（〃）　大谷勇（〃九）
黒岩覚（〃）　川船卓爾（〃一〇）
竹内健二（〃）　荒井猛（〃一三）
柳井卓三（〃）　荻原清作（〃）
小口英一（〃）　窪田潤（〃）
手塚政吾（〃一三）　山崎修也（〃）
山浦寛已（〃）　関嘉四郎（〃一四）
内藤次郎（〃）　土岐淳次（〃）
宮下義三郎（〃）　井上保雄（〃一五）
柄沢富雄（〃）　由井千幸（〃一六）
渡辺幸雄（〃）　吉井鼎（〃）
柳井沈（〃）　黒沢袈裟彦（〃）
富岡秀（〃）　永井俊郎（〃）
柳沢栄（〃一七）　高馬一郎（〃）
斉藤啓四郎（〃）　鈴木玄九（〃一八）
細井靜夫（〃）　赤松興一（〃）
越井英暢（〃）　宮島静三（〃）
宮坂栄（〃）　山崎掌録（〃一九）
林清市（〃）　大石唯男（〃）
大木定雄（〃）　滝沢芳樹（〃）
秋山武一郎（〃）　松村恵一（〃二〇）
白井美明（〃）　山本金之助（〃）
長谷川恒藏（〃）　坪根克彦（〃）
矢島文男（〃二一）　大井正夫（〃二二）
満沢佐俊（〃）　吉越繁夫（〃二三）
山村洋介（〃）　今村覚治（〃）
寺崎喜美（〃）　桑本正義（〃二三）
多川潛平（〃）　西原美登（〃二四）
原口惣一郎（〃）　有賀正治（〃二五）
福場小四郎（〃）　日幡暎一（〃）
塩入重雄（〃二六）　太田速雄（〃）
富永恭一（〃）　白井一雄（〃）
牧野徳太郎（〃二七）

高橋一郎（〃）　湯本益次郎（〃）
土居芳樹（〃）　松野正（〃）
諏訪幾久男（〃二八）　坂口卿次（〃）
宮田章（〃）　藥師寺宏吉（〃）
上石睦二郎（〃二九）　岩佐隆次（〃）
松崎滋（〃）　阿部信夫（〃）
向後正義（〃）　藪一義（〃三〇）
後藤則孝（〃）　細田増郎（〃）
武井登（〃）　若林伸明（〃三一）
志摩哲夫（〃）　吉田俊文（〃）
伊藤亮（〃）　河合敏雄（〃）
相野田文雄（〃）　和田一武（〃）
岡田喜六（〃）　山本十三（〃）
小木曾勝人（〃）　三村大八郎（〃三二）
山口栄一郎（〃）　中沢隆明（〃）
寓崎興志夫（〃）　和田正（〃）
島田猛（〃）　羽重次郎（〃三三）
竹重儒彦（〃）　青沼茂（〃）
堀内中雄（〃）　橘本孝一（〃）
菅原吉隆（〃）　西野礼（〃）
塩入重雄（〃）　中沢哲雄（〃三四）
島田信和（〃）　若林正一郎（〃）
野口新太郎（紡二）　小松忠十郎（〃三五）
神林浩三（〃四）　橘詰英雄（〃）
山内龍（〃七）　安井健一（〃）
江野村一雄（〃）　市原安臣（〃）
小林尚一（〃八）　中村治三郎（〃一〇）
近藤清一（〃二）　北沢琢郎（〃三）
佐藤一部（〃三）　榎本健一（〃）
矢島行雄（〃）　小沢利雄（〃四）
高木信夫（〃五）　上田正三（〃）
松本浩（〃六）　尾和博行（〃）
阿久津伊平（〃七）　柳沢柳二（〃）
永井千治（〃）　金井忠義（〃）
植田実（〃）　小林龍太（〃）
北崎寛能（〃一八）　中村登一部（〃一九）
川合信夫（〃）　寺崎隆夫（〃）
早野嘉人（〃二〇）　柴田尚（〃）
久保田哲二郎（〃）　土屋澄（〃）
青木実造（〃二二）　町田博（〃）
加藤隆正（〃）　一之瀬徳治（〃）

小泉正衛（〃二三）　馬場博史（〃）
小田中直人（〃）　小林政雄（〃）
赤羽馨雄（〃）　小野貞雄（〃二三）
櫻井幸男（〃）　小相沢栄夫（〃）
舟見甲子郎（〃）　赤羽安雄（〃）
藤森敏雄（〃）　岸本礼一（〃）
柳沢信（〃）　泉水幸信（〃二四）
大田信（〃二六）　大塚直人（〃）
和貞（〃）　塩沢久延（〃）
裕（〃）　中尾彰良（〃）
正猛（〃）　中島光夫（〃）
宮崎圭二（化一）　田口赫郎（〃一）
秀穂（〃）　山田信（〃）
小林三郎（〃）　西田謙三（〃）
天野定夫（〃）　高見沢良夫（〃）
宮島重一（〃）　三石巍人（〃二）
土屋貫一（〃）　中本新一部（〃）
柳沢千代茂（〃二）　小出直人（〃）
長谷川俊彦（〃）　鐘田作水（〃）
村井三郎（〃三）　飯田一郎（〃）
佐久間啓（〃）　山本治彦（〃）
永井茂（〃）　栗本正知（〃）
鹿田康之（〃）　永井保郎（〃四）
瀬在茂（〃）　伊藤博夫（〃）
福田重男（〃）　小原二一（〃）
上田成人（〃）　上原元（〃五）
大槻弘（〃）　大熊寛（〃）
北沢武（〃）　小林序（〃）
清水茂一（農一）　柳島純一（〃）
岡田晋一（〃）　小林茂（〃）
牧田轟雄（〃）　戸田正行（〃）
中沢功（〃）　櫻田十四規（〃）
宮深孝雄（〃）　小林吉郎（〃）
水出鳳一（〃）　小宮山儀正（專修）
恩田有明（〃）　杉本慶助（〃）
小川正美（〃）　安孫子文彌（〃三）
林新一（蚕二）　立岩笑保（〃）
中山鑑一（〃）　塩見豊一（〃四）
斎藤格次（〃）　皆川二郎（〃）
曾山直高（〃）

荒牧伊勢美（〃五）　高橋氾一（〃八）
金崎眞美（〃九）　原田種亀（〃）
中島茂（蚕一）　丸山十吉（〃一三）
内川勇（〃一三）　隆旗孝（〃一五）
松本一二（〃一六）　内苑隆吉（〃）
今井和人（〃）　雨宮金雄（〃一九）
森亮吉（〃）　祐成亮（〃）
早乙女德藏（〃）　堀川收（〃二〇）
仁尾幾朗（〃）　橘本博（〃二一）
酒包景雄（〃二三）　玉田城三郎（〃二四）
松吉博隆（〃二五）　長谷川敏文（〃）
高野憲三（〃二六）　井本俊一（〃二〇）
小池恭平（〃）　黒子浩（〃三一）
有賀文雄（糸一）　木内保平（〃二一）
飯島直（〃二二）　甲本正道（〃七）
石塚浪之助（〃）　好土泰造（〃八）
大塚重藏（〃）　緒方良純（〃二三）
白井要策（〃）　彼末武僖（〃二五）
渡部齊（〃）　野尻白二（〃二四）
是石春男（〃）　角替超夫（〃二五）
高橋伊作（〃）　笠島金治郎（〃二六）
宮坂美轟男（〃）　馬場長市（〃）
齋掛聰（〃）　神崎碩夫（〃二七）
市川敏三（〃二〇）　山田良人（〃）
滋野文雄（〃二九）　関幸作（〃）
上野康司（〃）　藤森明美（〃三〇）
松崎昇平（〃）　一之瀬茂（〃三一）
太田三郎（〃）　臼井四良（〃）
中村藤惠男（〃三二）　岩田久太夫（〃三三）
土生珀二（〃三四）　平沢和司男（〃）
三宅轟雄（〃）　原相撲（〃三五）
多泉清（〃三六）　木村正美（〃）
野島忠義（〃三七）　安岡美登（〃三六）
鈴木泰平（〃）　原秀一（〃三九）
羽生英尚（〃三〇）　野仲尚明（〃三一）
鹿住周平（〃三三）　井上忠雄（〃三四）
巢山喜吉（紡二）　服部虎雄（〃二）
宮本輝雄（〃三）　高品喜一郎（〃四）
橘本和夫（〃六）　坂本政雄（〃七）
藤井富美男（〃八）　宮坂澱保（〃）
坂求（〃九）　滝沢和三郎（〃三）

松沢榮（〃三）　中野六郎（〃）
矢崎勝（〃）　北沢茂樹（〃）
細永雄三（〃一七）　高橋卓爾（〃）
龍谷精一（〃一九）　白川幸治（〃）
佐々木浩（〃三三）　森隆吉（〃二四）
武田巍（〃二三）　德井虎一（化一）
宮原家候（〃五）

昭和二十三年度通常會費金百圓也

鵜田定平（蚕一）　浜井轟夫（〃二）
中田〃太郎（〃七）　根岸丑之助（〃八）
勅使河原保（〃）　中島茂司（〃）
向井玫瞬（〃一〇）　米田俊雄（〃）
池田正五郎（〃一一）　岩根醜（〃）
湯水衛敏（〃）　北島正生（〃一三）
山口定次郎（〃）　吉田隆夫（〃一三）
宮前邦雄（〃）　山崎壽（〃一四）
永井勝未（〃）　平野秀男（〃一五）
兒玉信發（〃）　森戸晋（〃）
宮崎秋雄（〃）　片山次夫（〃）
藤本衛佐雄（〃一六）　熊谷恒次（〃）
中村聰（〃）　泗井嘉美（〃一七）
北原喜昌（〃）　宮堀俊雄（〃）
北條五郎右衛門（〃）　出穗稔（〃）
中沢利三郎（〃）　西沢重光（〃）
西原淳一（〃）　田口亮平（〃）
橘本博（〃）　吉川正喜（〃一八）
坂口正信（〃）　六川忠一郎（〃）
細川俊雄（〃）　宮沢卿（〃一九）
香掛久雄（〃）　相生義文（〃）
平尾孝平（〃）　河野太郎（〃二〇）
宮川千三郎（〃）　船富正慶（〃）
西沢良一（〃二一）　塚本優（〃）
鈴木正悟（〃）　秋山俊雄（〃二二）
西田正（〃）　古平巍雄（〃）
淺川茂樹（〃）　白土孫七郎（〃）
青木潔（〃）　小林敏（〃）
鈴木茂（〃）　渡辺嘉博（〃）
田近肇（〃）　竹内好武（〃）
水野巍雄（〃）　横沢正雄（〃）
久保田不二夫（〃二三）
岡博夫（〃）

山内一次（〃）　山浦忠（〃）
秋山俊雄（〃二四）　望月藤夫（〃）
清水良一（〃二五）　堀内友治（〃）
内藤康三（〃）　塚田典次（〃）
小山長雄（〃二六）　宮沢傳（〃）
木内眉一（〃）　山田次男（〃）
長谷川政雄（〃）　瀧沢昌一（〃）
菊地六郎（〃二七）　今井省吾（〃）
田中熙（〃）　松尾卓見（〃二八）
秋馬彌平（〃）　且崎正夫（〃）
田中英一（〃）　手塚逸郎（〃）
外村吉高（〃）　半田孝康（〃）
中島正巳（〃）　大瀧吉郎（〃二九）
西村國男（〃）　古平龍起（〃）
今井喜八（〃）　矢川寛一（〃）
中島英男（〃）　片山文一（〃）
今井圭一（〃）　柿崎泰久（〃）
阿曾英二（〃）　蹈田秀喜（〃）
塩入勘（〃三〇）　山口秀一（〃）
石井耕一（〃）　山中明（〃）
田中泰久（〃）　宮下豊次（〃）
廣瀬幸男（〃三一）　柿原修（〃）
丹羽久幸（〃）　桑島新一郎（〃）
田島政三（〃）　川島守（〃）
牧野嘉雄（〃）　島田猪一郎（〃）
松沢順平（〃）　柳沢新一（〃）
岡野琢也（〃三）　荒井瀬（〃）
竹内孝保（〃）　五月女省三（〃）
宮原豐（〃）　宮下久吉（〃）
伊藤文男（〃）　中西晶（〃）
柴田正見（〃）　田島佳人（〃）
宇治川喜平（〃三三）　中原武（〃）
杉坂輝夫（〃）　兒玉郁郎（〃）
後藤新（〃）　小松章一（〃）
相沢恒雄（〃）　大森文作（〃）
山浦俊美（〃）　佐藤良夫（〃）
武井志郎（〃）　鈴木公人（〃三四）
松本光夫（〃）　三輪久利（〃）
井出智（〃三五）　小野昭夫（〃）
石井寛（〃）　大原功（〃）
小松典（〃）　高橋威（〃）

櫻井善雄（〃）　高橋裕（〃）
中村壽鶴一（〃）　手塚昭三（〃）
西村宣昭（〃）　横山典彦（〃）
宮沢清志（〃）　竹内寅太（〃）
佐藤正（〃）　小林利弘（〃）
新実和男（〃）　青柳寛（〃）
貞松廣四郎（〃）　出浦重右衛門（〃）
堀江史郎（〃）　神岡康男（〃）
山浦和水（〃）　田中一行（〃）
中村文夫（〃）　井上一郎（糸五）
隅山專三（糸六）　宮田庄三郎（〃八）
小山清（〃一）　櫻井卓三（〃三）
小平光雄（〃三）　内藤次郎（〃四）
関嘉四郎（〃）　山崎修也（〃）
土岐茂次（〃）　宮下義三郎（〃）
伊藤敏之（〃三五）　柄沢富雄（〃）
永井俊郎（〃二六）　黒沢袈裟彦（〃）
斎藤監（〃）　渡辺幸雄（〃）
富岡秀（〃）　樹井汎（〃）
由井千幸（〃）　高馬一郎（〃三）
瀧沢啓四郎（〃）　酒井辰夫（〃六）
寵島喜藏（〃）　鈴木玄九（〃）
赤松興一（〃）　宮島靜三（〃）
大木定雄（〃二七）　瀧沢芳樹（〃）
山崎常錄（〃）　秋山武一郎（〃）
林清市（〃）　白井美明（〃三〇）
矢島文男（〃）　長谷川恒藏（〃）
牧道男（〃）　大井正夫（〃）
松村憲一（〃）　山本金之助（〃）
青野喜通（〃）　高橋英（〃三二）
森剛夫（〃）　滿沢脩（〃三三）
羽鳳次郎（〃）　今村鶯治（〃）
河合式太郎（〃三三）　山本辰雄（〃）
太田速雄（〃三五）　山浦克己（〃）
日幡暎一（〃）　赤崎喜美（〃）
的場小六（〃）　多川澄平（〃）
白井一雄（〃）　原口逸一郎（〃）
岡田廣太（〃三六）　有賀正治（〃）
寫永悉（〃三七）
塩入重雄（〃）
松野正（〃）

牧野德太郎（糸二七）　高橋一郎（〃）
湯本益次郎（〃）　藥師寺宏吉（〃二八）
宮田章（〃）　諏訪幾久男（〃）
坂口靜次（〃）　阿部信夫（〃二九）
荒木榮（〃）　向後正義（〃）
岩佐篤次（〃）　松崎滋（〃）
上石睦二郎（〃）　藪一義（〃三〇）
武井登（〃）　松尾祥三（〃）
細田增郎（〃）　後藤即孝（〃）
若林伸明（〃三一）　相野田文雄（〃）
吉田俊夫（〃）　和田一武（〃）
伊藤晃（〃）　岡田喜六（〃）
河合敏雄（〃）　山本十三（〃）
小木曾勝人（〃）　三村大八郎（〃三二）
島田猛（〃）　宮崎與志夫（〃）
山口榮一郎（〃）　中沢篤明（〃）
佐藤文寅（〃）　杉浦市太郎（〃三三）
西野礼（〃）　菅原吉高（〃）
熊岩義盛（〃）　塩入貞雄（〃）
橘本孝一（〃）　堀内由雄（〃）
島田信和（〃三四）　若林正一郎（〃）
内藤久男（〃）　中沢哲夫（〃）
石塚敏夫（〃三五）　伊倉健二（〃）
甘利雅久（〃）　唐沢昭夫（〃）
大原不二人（〃）　櫻山幹男（〃）
小野信夫（〃）　久保博俊（〃）
腰野昭八（〃）　田中福三（〃）
目取眞武（〃）　柳沢義之（〃）
原田弘篤（〃）　岡部博一郎（〃）
高橋孝治（〃）　堀米吉美（〃）
村瀬忠男（〃）　清水鵬智夫（〃）
北沢篤治（〃）　保科學（〃）
土屋晴夫（〃）　神林浩三（紡四）
平田清親（紡五）　山内龍一（〃七）
市原安臣（〃）　江野村一雄（〃）
安井健一（〃）　小林尚一（〃八）
中村治三郎（〃一〇）　田村朝之助（〃一一）
近藤清一（〃）　藤島一千（〃一三）
北沢琢也（〃）　榎本健二（〃）
矢島行雄（〃一三）　小沢利雄（〃一四）
上田正三（〃一五）　高木信雄（〃）

平野庄一（〃一六）　尾和博行（〃）
柳沢六平（〃）　松本浩（〃）
二木典夫（〃）　永井千治（〃一七）
小林龍太（〃）　阿久津伊平（〃）
植田寅（〃）　柳沢柳二（〃）
川合信夫（〃一九）　寺崎篤夫（〃）
岡田幸一（〃二〇）　久保田哲二郎（〃）
土屋澄（〃）　松尾昭光（〃二一）
柴田尚（〃）　青木寅造（〃二二）
井上大（〃）　一之瀬德治（〃）
加藤篤正（〃）　坂根宗太郎（〃）
小田中直高（〃二三）　田島三喜夫（〃）
山岸啓男（〃）　小林政雄（〃）
赤羽譲雄（〃）　小野貞雄（〃二三）
山本周三（〃）　櫻井幸男（〃）
小相沢栄夫（〃）　馬場博夫（〃）
清水義夫（〃二四）　舟見甲子郎（〃）
赤羽安雄（〃）　柳沢信（〃）
岸本礼一（〃）　藤森敏雄（〃）
泉水幸信（〃二五）　斎藤篤（〃）
改正猛（〃二六）　沢田裕（〃二六）
中島光夫（〃）　大塚直人（〃）
中尾彰良（〃）　太田保（〃）
居鶴和貞（〃）　塩沢久延（〃）
小林正明（〃二七）　大久保俊朗（〃）
内藤俊雄（〃）　有賀篤一郎（〃）
赤尾善德（〃）　宮坂敏美（〃）
上野政衛（〃）　小林祥愛（〃）
瀬在敬二（〃）　尾崎守雄（〃）
飯島重雄（〃）　足立統三（〃）
久保忠夫（〃）　荻原博文（〃）
河辺荘六（〃）　巣山恭二（〃）
片岡正志（〃）　松野喬木（〃）
笠原義昭（〃）　藤田德三郎（〃）
山口高志（〃）　橘詰忠夫（〃）
伊藤辰夫（〃）　田口赫郎（化一）
宮崎圭二（化一）　山田信（〃）
西田譲三（〃）　天野定夫（〃）
小林三郎（〃）　高見沢良夫（〃）
宮島重一（〃）　窪田作水（〃二一）
三石義人（〃）　長谷川俊夫（〃）

土屋貢一（〃）　中本新一郎（〃）
柄沢俊信（〃）　柳沢千代茂（〃）
山本治彦（〃三）　永井茂（〃）
栗本正知（〃）　藤田康之（〃）
飯田一郎（〃）　村井三郎（〃）
中沢泉（〃四）　瀬在茂（〃）
伊藤博夫（〃）　福田重男（〃）
小原二一（〃）　石川清美（〃）
上田成人（〃）　大熊実（〃五）
上原元（〃）　浪方昌近（〃）
岡口和夫（〃）　大樹弘（〃）
北沢武（〃）　小林啓（〃）
三口文芳（〃六）　高木盛郎（〃）
長島哲夫（〃）　兒平文雄（〃）
永田廣夫（〃）　松岡龍男（〃）
深井宏信（〃）　小泉昭二（〃）
佐藤和夫（〃）　平野英雄（〃）
見田利夫（〃）　木村敏（〃）
田村義鑑（〃）　畠中昭次（〃）
稲垣厚（〃）　土方勝巍（〃）
小谷野信一（〃）　小林靜夫（〃）
小松計一（〃）　野崎昭嗣（〃）
小原正久（〃）　小木曾俊郎（〃）
中沢劲（農一）　岡田晉一（〃）
戸田正行（〃）　滑水茂一（〃）
櫻田十四規（〃）　宮沢孝雄（〃）
小林吉郎（〃）　水出貞一（〃）
小林茂（〃）　滑水傳二（〃一二）
原貞澄（〃）　伊藤善行（〃）
欒場袈裟雄（〃）　松永典雄（〃）
大森武（〃）　岡田純（〃）
飯島暢（〃）　大泉英朗（〃）
三井尚敏（〃）　清水昭興（〃）
河西健一（〃）　田中茂光（〃）
竹原甲三（〃）　德永雄治（〃）
西沢芳智（〃）　関武吉（〃）
野口袈裟公（〃）　渡辺寛次（〃）
堀親弘（〃）　小口敬造（〃）
中村塚田長治（〃）　小川清輝（〃）
土屋松喜（〃）　棚田方忠（〃）
松田滑（〃）

島田昭郎（〃）　三輪雅嘉（〃）
光間光一（〃）　横山薫（〃）
上原晃（專修）　小宮山儀正（〃）
藤谷卓三（〃）　藤野敏郎（〃）
恩田有昭（〃）　田村喜久雄（〃）
池内三男（〃）　杉本廣助（〃）
安孫子文鵬（筮三）　中山鑑一（〃）
高橋記一（〃八）　金崎眞英（〃九）
中島茂（〃一）　内川勇（〃三）
今井和人（〃）　松本一二（〃一六）
降旗孝（〃）　森亮吉（〃一七）
早乙女德藏（〃）　祐成晃（〃）
竹内博雄（〃一九）　仁尾幾朗（〃二〇）
酒包貴雄（〃二三）　玉田城三郎（〃二四）
長谷川敏文（〃二五）　松吉博臣（〃）
高野憲三（〃二六）　井本俊一（〃三〇）
小池恭正（〃）　黒子浩（〃三一）
木内保平（糸二）　飯島直（〃三）
石塚浪之助（〃七）　大塚重藏（〃八）
白井要範（〃一三）　緒方良純（〃一三）
彼末武猪（〃一五）　高橋伊作（〃一四）
野尻白二（〃一四）　笠島金治郎（〃一六）
香掛聰（〃）　神崎碩夫（〃一七）
中村守太（〃）　大石唯男（〃一九）
滋野文雄（〃）　藤森明美（〃二〇）
一之瀬茂（〃二一）　松崎昇平（〃）
白井四良（〃）　太田三郎（〃）
吉田爲雄（〃）　山村洋介（〃二三）
中村壽惠男（〃）　岩田久太夫（〃二三）
土生泊二（〃二四）　平沢和司男（〃）
三宅靜雄（〃二五）　吉川啓人（〃二五）
原相儀（〃）　多泉清（〃二六）
木村正美（〃）　野島忠義（〃二七）
安岡美登（〃二六）　鈴木泰平（〃）
原秀一（〃二九）　上野康司（〃）
羽生英尚（〃三〇）　野仲尚明（〃三一）
鹿住周平（〃三一）　井上忠雄（〃三四）
大矢康國（〃三五）　和田重成（〃）
宮入治男（〃）　服部虎雄（紡二）
宮本靜雄（〃三）　高品喜一郎（〃四）
橘本和夫（〃六）　坂本政雄（〃七）

高坂　燦保（紡八）　藤井富美男（〃）
坂　求（〃九）　松沢　榮（〃一三）
滝沢和三郎（〃）　中村　六郎（〃一四）
北沢　茂樹（〃一五）　矢崎　勝（〃）
福永　雄二（〃一七）　高橋　卓爾（〃）
白井　孝治（〃一九）　龍谷　精一（〃）
川人　良次（〃二一）　佐々木　浩（〃二四）
森　隆吉（〃二五）　高橋　清司（〃二七）
波多野秀民（〃）　小林　弘人（〃）
武田　撰（〃）　宮原　家候（化五）
鵜飼　皖一（化七）　松根　正典（農二）
吉本　吉郎（〃六）　小川　正典（專修）
丸山　文保（〃）　福島　毅次（〃）
中島　忠雄（〃）

昭和二十五年度通常會費金百圓也

林　清一（糸九）　服部　虎雄（紡二）
坂本　政雄（〃）　江野村一雄（〃七）
高橋　伊作（糸一四）　高橋　平夫（〃三六）

昭和二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一年度會費　高橋　伊作（糸一四）

昭和三十二年度會費　高橋　平夫（〃三六）

昭和二十四年度通常會費金百圓也

藤本衛佐雄（蚕一六）　今井　喜八（〃二九）
井上　大（紡二）　舟見申子郎（〃二四）
中尾　彰良（〃二六）　田村喜久雄（專修）
川合　福美（蚕三六）　滝沢　幸彦（〃）
中島　敏夫（〃）　宮沢津多澄（〃）
鎌田　満春（糸三五）　金子　保夫（〃三六）
内山　政義（〃）　島崎　昭典（〃）
林　茂（〃）　羽田　幸久（〃）
中山威四郎（〃）　傳田　信夫（紡八）
松井　正之（〃）　夏井　靖喜（化七）
佐藤　正明（〃）　大江　弘（〃）
長谷川　弘（〃）　古川治十郎（〃）
手塚　久男（農三）　浜井　蔣夫（蚕二）
小山　清（糸二）　櫻井　幸男（紡三）
市原　安臣（〃七）　江野村一雄（〃）
安井　健一（〃）　二木　典夫（〃一六）
林　清市（糸一九）　大井　正夫（糸三〇）
日幡　暎一（〃三三）　諏訪幾久男（〃二八）
青木　深（蚕三三）　渡辺　寛次（農二）
高橋　氾一（蚕八）　金崎　鳳英（〃九）
降旗　孝（〃一五）　今井　和人（〃一八）
祐成　清（〃一七）　田口　亮平（〃）
早乙女徳蔵（〃）　橘本　博（〃）
村田　一由（〃一八）　塚本　優（〃二一）
酒包　景雄（〃二三）　竹田　好武（〃二三）
玉田城三郎（〃二四）　堀口　友治（〃二五）
高野　繁三（〃二六）　井本　俊一（〃三〇）
小池　恭正（〃）　黒子　浩（〃三一）
宮下　久吉（〃三三）　荒井　漸（〃）
兒玉　郁郎（〃三三）　桑原　宣治（〃三六）
吉沢　彌（〃）　田中　庫男（〃）
倉沢　正利（〃）　神津　昭（〃）
高本　精一（〃）　岩岡　辰雄（〃）
長井　和明（〃）　飯島　直（糸三）
木内　保平（〃三一）　白井　要篤（〃三）
彼末　武猪（〃三三）　高橋　伊作（〃一四）
山崎　修也（〃）　笠島金治郎（〃一六）
野尻　白二（〃）　滋野　文雄（〃一九）
鷹森　明美（〃二〇）　松崎　昇平（〃）
太田　三郎（〃二一）　白井　四良（〃）
中村壽惠男（〃二三）　岩田久太夫（〃二三）
河井式太郎（〃）　宮宅　靜雄（〃二四）
原　相模（〃二五）　平沢和司男（〃）
原口惣一郎（〃）　西井　茂雄（〃二六）
多泉　清（〃）　木村　正美（〃）
坂口　靜次（〃二八）　藥師寺宏吉（〃）
鈴木　寨平（〃）　安岡　美登（〃）
原　秀一（〃二九）　上野　康司（〃）
羽生　英尚（〃三〇）　野仲　尚明（〃三二）
鹿住　周平（〃三三）　井上　忠雄（〃三四）
大矢　雖國（〃三五）　和田　寶盛（〃）
宮人　治男（〃）　高橋　平夫（〃三六）
小山　彰一（〃）　西沢　秀夫（〃）
雨宮　育造（〃）　新田　佳男（〃）
中野　國雄（〃）　井上　一郎（紡一）
都繼南海男（〃）　服部　虎雄（〃一二）
宮本　靜雄（〃一三）　高品喜一郎（〃一四）
橘本　和夫（〃六）　坂本　政雄（〃七）
高坂　燦保（〃八）　藤井富美男（〃）
坂　求（〃九）　松沢　榮（〃一三）
滝沢和三郎（〃）　藤島　一千（〃）
矢崎　勝（〃一五）　北沢　茂樹（〃）
白川　孝治（〃一九）　龍谷　精一（〃）
川人　良次（〃二一）　佐々木　浩（〃二四）
森　隆吉（〃二五）　高橋　清司（〃二七）
武田　撰（〃二六）　小林　弘人（〃）
波多野秀民（〃二七）　中野　六郎（紡四）
日向　弘（〃）　竹内　元良（〃二八）
島　博明（〃）　柄沢　昌一（〃）
越川　治文（〃）　笠原　一郎（〃）
松崎　正夫（〃）　古屋　和夫（〃）
一木　秀夫（〃）　高草木孝典（〃）
鵜飼　皖一（化一）　母袋　健一（〃）
吉本　吉郎（〃六）　富原　家候（〃五）
林　武（〃七）　小谷野信一（〃）
飯島　千春（〃）　西島　靖之（〃）
神野　博（〃）　堀　正文（〃）
巢山　朔郎（〃）　田中　英明（〃）
松本　昇（〃）　大江　弘（〃）
大森　武（〃）　島田　昭郎（農二）
酒井　益次（〃）　我山　義弘（〃三）
斎藤　正三（〃）　岡　垣脩（〃）
芝間清三郎（〃）　小池　清雅（〃）
藤谷　卓三（專修）　髙沢　巧衛（〃）

未納會費納入者

金九拾八円也　高品喜一部（紡四）
金八拾九円也　宮下儀三郎（糸二四）
金八十五円也　渡辺　幸雄（〃一六）
金八十四円也　神林　浩三（紡四）
金七拾七円也　岩掛　聰（糸一六）
金七拾壱円也　服部　虎雄（紡二）
金七拾円也　滝沢啓四郎（糸三七）
藤井富美男（紡八）
金六拾八円也　酒井　淳央（糸一八）
金六拾四円也　森　亮平（蚕一七）
金六拾参円也　飯島　直（糸三）
金六拾円也　木内　保平（〃二）
金五拾八円也　清水　良一（蚕三五）
金五拾七円也　福場小四郎（糸三五）
白井　一雄（〃二六）
金五拾六円也　髙木　信權（紡二五）
富田庄三郎（糸八）　長谷川敏文（蚕三二）
酒井　嘉美（〃一七）　松吉　博隆（〃）
髙橋　伊作（糸一四）　原　相模（糸三五）
滋野　文雄（糸九）　滝沢啓四郎（糸三七）
松沢　榮（紡三）　藤井富美男（紡八）
倉沢　文夫（蚕一九）　金五拾四円也
降旗　孝（〃一五）　金五拾参円也
金五拾弐円也　坪根　克彦（糸二〇）
中野　六郎（紡四）　金五拾壱円也
金五拾円也　櫻井　汎（紡三）
金四拾八円也　橘本　和夫（〃六）
金四拾七円也　櫌本　健一（〃一三）
金四拾六円也　近藤　清一（〃一一）
金四拾五円也　中沢利三郎（蚕一七）
金四拾四円也　宮崎　俊雄（〃）
山浦　克乙（糸三三）　中村　守太（糸一七）
早乙女徳蔵（蚕一七）　片山　次夫（蚕一五）
金四拾参円也　矢島　行雄（紡三三）
金四拾弐円也　中川　勇（蚕三三）
江野村一雄（紡七）　祐成　亮（〃一七）
金四拾円也　橘本　博（〃）
北沢　茂樹（紡六）　福永　雄三（紡一七）
永島　覚（糸一七）　牧　道男（糸三〇）
山本　辰雄（〃三三）　上田　正三（紡一五）
尾和　博行（紡六）　野尻　白二（糸一四）
金参拾八円也　宮下　弘（蚕三四）
金参拾六円也　西原　美登（糸三四）
清水　良一（蚕三五）　日幡　暎一（〃三三）
福場小四郎（糸三五）　富永　恭一（〃二九）
白井　一雄（〃二六）　永井　千治（紡一七）
髙木　信權（紡二五）　神埼　碩夫（糸一七）
長谷川敏文（蚕三二）　中山　儼一（蚕三二）
松吉　博隆（〃）　坂本　政雄（紡七）
原　相模（糸三五）　髙坂　燦保（紡八）
金参拾五円也　由井　千幸（糸六二）
金参拾四円也　北原　喜昌（蚕一七）
金弐拾弐円也　大石　喨男（糸一九）
鈴木　茂（蚕三二）　多泉　清（〃二六）
仁尾　幾朗（〃二〇）

金參拾壹円也
金參拾円也
木村　正美（糸二六）
金弐拾九円也
金弐拾八円也
西原　淳一（蚕一七）
秋馬　鵬平（〃二八）
土居　芳樹（糸一七）
岩田久太夫（〃二三）
金弐拾七円也
金弐拾六円也
金弐拾五円也
金弐拾四円也
安岡　美登（糸九）
松崎　昇平（〃一〇）
竹内　博雄（蚕九）
頼富　正廣（〃一〇）
中島　正已（〃）
有賀　正治（糸三）
安井　健一（紡七）
金弐拾參円也
金弐拾円也
塚本　優（〃一五）
塚田　典次（〃一五）
福田　英彦（蚕二九）
中島　英男（〃）
山中　明（〃）
柳沢　新一（〃三）
滿沢　佐脩（〃三）
向後　正義（〃二九）
武井　登（〃）
加藤　隆正（紡二）
寺崎　隆夫（〃一九）
天野　定夫（化一）
宮崎　圭司（〃）
高見沢良夫（〃）
中本新一郎（〃三）
徳井　皖一（〃一）
荒井　瀬（〃三）
吉田　爲雄（糸二）

小林　尚一（紡八）
松本　浩（〃一八）
安孫子文彌（蚕三）
櫻井　卓三（糸一三）
鶏田　定平（蚕一）
秋山　俊雄（蚕二）
宮島　靜三（糸一八）
宮田　章（〃二八）
龍谷　精一（紡九）
柄沢　富雄（糸一五）
小山　長雄（蚕二八）
出穂　稔（〃一七）
土生　珀二（糸五五）
滝沢和三郎（紡一三）
白井　四良（糸二一）
玉田城三郎（〃二四）
外村　吉高（〃二八）
矢川　寛一（〃二九）
鈴木　玄九（〃一八）
宮島　靜三（〃）
高馬　一部（〃一四）
吉川　正書（蚕一八）
西沢　良一（〃二一）
白土鶴七郎（〃二三）
大坪　健一（〃二八）
古平　福紀（〃）
田中　泰久（〃二三）
塩入　勳（〃）
山崎　常錄（糸一九）
牧野德太郎（〃一七）
後藤　則幸（〃一〇）
若林　仲明（〃二一）
山内　龍一（紡七）
櫻井　幸男（〃一三）
小林　三郎（〃）
宮島　重一（〃）
三石　義人（〃一一）
小池　恭正（蚕二〇）
黒子　浩（〃二）
矢崎　勝（紡一六）

金拾七円也
金拾六円也
竹内　正司（糸二〇）
藤森　明美（〃）
白川　孝治（紡九）
池田正五郎（蚕一一）
今井　喜八（〃）
川島　守（〃）
林　清一（〃二九）
松崎　滋（〃）
佐藤　一郎（紡一三）
久保田哲二郎（〃二〇）
藤森　敏雄（〃二四）
永井　茂（〃）
金拾參円也
金拾弐円也
田口　亮平（〃一七）
渡辺　嘉博（〃一三）
松尾　卓見（〃一九）
手塚　逸郎（〃）
白井　美明（糸一九）
太田　速雄（〃二五）
荒木　榮（〃）
中沢　暹明（〃一三）
島田　猛（〃一三）
植田　寛（紡一七）
長谷川俊彦（化一一）
伊藤　博夫（〃四）
瀬在　茂（〃）
大塚　重藏（糸一八）
野仲　尚明（〃一三）
竹内　好武（蚕一三）
中村藤惠男（糸一三）
金崎　眞英（蚕九）
金拾壹円也

金八円也
吉川　啓人（〃一五）
宮下　久吉（蚕一三）

坂　求（紡九）
石塚浪之助（糸七）
鹿住　周平（〃一三）
高橋　氾一（〃八）
鈴木　泰平（糸二六）
阿曾　英二（〃一九）
柿原　修（〃一三）
関　嘉四郎（糸一四）
湯本益次郎（〃一七）
羽黒　次郎（〃一三）
二木　興夫（紡一六）
田島三喜夫（〃一三）
栗本　正知（化一三）

土岐　茂次（糸一四）
坂口　正信（蚕一八）
沓掛　久雄（〃一九）
関　博夫（〃一三）
半田　孝康（〃一八）
石井　耕一（〃一〇）
塩入　重雄（〃一六）
諏訪幾久男（〃一九）
松尾　淳三（〃一〇）
山本　十三（〃一三）
佐藤　文富（〃一三）
小野　貞雄（〃一三）
上田　成人（〃四）
福田　重男（〃）
野島　忠義（糸一三）
原　秀一（〃一九）
塚本　優（蚕一一）
酒包　長雄（〃一三）
白井　要箇（〃一三）

宮本　靜雄（紡一）
西田　謙三（化一）
松沢　順平（蚕一）
井上　一郎（紡一）
緒方　良純（糸一三）
一之瀬　茂（〃一一）
高橋　卓爾（紡一七）

太田　三郎（糸一）
佐々木　浩（紡一四）
西沢　重光（〃一七）
山内　一次（蚕一三）
滝沢　昌一（〃一六）
内藤　康三（〃一三）
牧野　嘉雄（〃一一）
中西　晶（〃一三）
小松　章一（〃一三）
永井　俊郎（糸一六）
長谷川恒藏（〃一〇）
阿部　信夫（〃九）
山口栄一郎（〃一三）
中村治三郎（紡一〇）
北沢　琢郎（〃一三）
馬場　博史（〃一三）
斎藤　隆（〃一四）
柄沢　俊信（化一）
小原　二一（〃四）

金四円也　北條五郎右衛門（蚕一七）
栗原　章（〃五）
中島　茂（〃一）
菊地　六朗（〃一七）
六川忠一郎（〃一八）
細川　鑒（〃）
桐生　義文（〃）
青木　深（〃一三）
横沢　正雄（〃一三）
木内　庸一（〃一六）
大滝　吉郎（〃一九）
柿崎　泰彦（〃）
廣瀬　幸男（〃一一）
田島　佳人（〃一三）
伊藤　文男（〃）
大森　文作（蚕一三）
山浦　俊美（〃）
佐藤　良夫（〃）
三輪　久利（〃一四）
彼末　武猪（糸一三）
大井　正夫（〃一〇）
羽生　英尚（〃）

笠島金治郎（〃一六）
宮崎　秋雄（蚕一五）
山口定次郎（〃一一）
滑水　義夫（紡一四）
藥師寺宏吉（〃一八）
上石睦二郎（〃一九）
岩佐　隆次（〃一九）
和田　一武（〃一三）
河合　敏雄（〃）
吉田　俊文（〃）
三村大八郎（〃一三）
西野　祇（〃）
黒岩　義盛（〃）
堀内　由雄（〃）
島田　信昭（〃一四）
原口惣一郎（〃）
小沢　利雄（紡一四）
柳沢　柳二（〃一七）
土屋　澄（〃）
柴田　尚（〃一〇）
山本金之助（〃）
井上　大（〃）
赤羽　馨雄（〃一三）
小林　政雄（〃）
馬場　博史（〃一三）
舟見甲子郎（〃一四）
大塚　直人（〃一五）
沢田　稔（紡一六）
太田　保（〃）
和貞　隆吉（〃一五）
山田　貢（化一）
山本　治彦（〃一一）
佐久間　啓（〃一三）
藤田　康之（〃）
大熊　実（〃）
小林　啓一（〃）
清水　茂（〃）
柳島　純雄（〃）
宮沢　孝雄（〃）
水田　眞一（〃一一）
小宮山儀正（事修）
杉本　慶助（〃）

吉越　繁夫（〃一三）
河合式太郎（〃）
多川　滝平（〃一四）
三宅　靜雄（〃）
藥師寺宏吉（〃一八）
上石睦二郎（〃一九）
岩佐　隆次（〃一九）
和田　一武（〃一三）
河合　敏雄（〃）
吉田　俊文（〃）
三村大八郎（〃一三）
西野　祇（〃）
黒岩　義盛（〃）
堀内　由雄（〃）
島田　信昭（〃一四）
原口惣一郎（〃）
小沢　利雄（紡一四）
柳沢　柳二（〃一七）
土屋　澄（〃）
柴田　尚（〃一〇）
山本金之助（〃）
井上　大（〃）
赤羽　馨雄（〃一三）
小林　政雄（〃）
馬場　博史（〃一三）
舟見甲子郎（〃一四）
大塚　直人（〃一五）
沢田　稔（紡一六）
太田　保（〃）
和貞　隆吉（〃一五）
山田　貢（化一）
山本　治彦（〃一一）
佐久間　啓（〃一三）
藤田　康之（〃）
大熊　実（〃）
小林　啓一（〃）
清水　茂（〃）
柳島　純雄（〃）
宮沢　孝雄（〃）
水田　眞一（〃一一）
小宮山儀正（事修）
杉本　慶助（〃）

寺崎　喜美（〃一三）
平沢和司男（〃）
高橋　一郎（〃一四）
坂口　靜次（〃一八）
上野　康司（〃）
藪　一義（〃一〇）
伊藤　亮（〃）
相野田文雄（〃）
小木曾勝人（〃）
曾原　吉隆（〃一三）
宮崎與志夫（〃）
橘本　孝一（〃）
井上　忠雄（〃一四）
中沢　哲夫（〃一四）
若林正一郎（〃）
阿久津伊平（紡一七）
川合　信夫（〃一九）
土屋　澄（〃）
青木　実造（〃一一）
板根宗太郎（〃）
小田中直人（〃）
小相沢榮夫（〃一三）
山岸　啓男（〃一四）
赤羽　安雄（〃一四）
泉水　幸信（〃）
敬正　猛（紡一六）
中尾　章良（〃）
塩沢　久延（〃）
武田　嶽（〃）
田口　嶽郎（〃一二）
柳沢千代茂（〃）
小出　直人（〃）
飯田一郎（〃一三）
上原　元（〃五）
北沢　武（〃）
宮原　家候（化五）
小林　茂（農一）
中沢　功（〃）
戸田　正行（〃）
櫻田十四規（〃）
小林　吉郎（〃一二）
小川　正夫（〃）
恩田　有昭（〃）

會費領收

（八月三十一日現在）

入會金完納者

井出　智（蚕三五）　小野　昭夫（〃）
小松　典（〃）　石井　寛（〃）
勝野　貞哉（〃）　鈴木正一郎（〃）
高橋　威（〃）　高橋　裕（〃）
手塚　昭三（〃）　新実　和男（〃）
西村　直昭（〃）　櫻井　善雄（〃）
宮沢　清志（〃）　中村壽鶴一（〃）
横山　彦典（〃）　伊倉　健二（糸三五）
甘利　雅久（〃）　大原不二人（〃）
石塚　敏夫（〃）　唐沢　昭夫（〃）
櫻山　幹男（〃）　北沢　隆治（〃）
久保　傳俊（〃）　鷲野昭八郎（〃）
田中　福三（〃）　野中　典夫（〃）
保科　学（〃）　柳沢　義之（〃）
目取眞　武（〃）　岡部傳一郎（〃）
原田　弘隆（〃）　飯島　重雄（紡三七）
荻原　博文（〃）　足立　統三（〃）
伊藤　辰夫（〃）　笠原　義昭（〃）
河辺　荘六（〃）　片岡　正志（〃）
松野　喬木（〃）　久保　忠夫（〃）
巣山　恭二（〃）　橘請　忠夫（〃）
山口　高志（〃）　藤田德三郎（〃）
湯原　悟（〃）　山浦　和水（〃）
須田　公三（〃）　田中　一行（〃）
長島　哲夫（〃）　永田　廣夫（〃）
松岡　斎雄（〃）　深井　宏信（〃）
飯島　暢（農二）　岡野　靖（〃）
大泉　英朗（〃）　岡田　純（〃）
河西　健治（〃）　川室　松郎（〃）
清水　昭典（〃）　竹原　甲三（〃）
関　武吉（〃）　西沢　芳賀（〃）
三井　尚敏（〃）　珈　親郎（〃）
渡辺　寛次（〃）　牧田　壽雄（農一）
中沢　功（〃）　清水　茂一（〃）
戸田　正行（〃）　柳島　純雄（〃）
神崎　聖德（蚕三七）　古平　福紀（〃）

山崎　常錄（糸一九）　坪根　克彦（〃三〇）
土居　芳樹（〃三七）　小野　貞雄（紡三五）
向後　正義（糸二九）　羽電　次郎（〃三三）
島田　猛（〃三三）　阿久津伊平（紡一七）
宮崎　圭司（化一）　飯田　一郎（〃三一）
上原　元（〃二五）　関口　和夫（〃）
浪方　昌近（〃）　清水　義夫（紡二四）
杉坂　輝夫（蚕三三）　沢田　榕（〃二六）
高橋　保雄（〃二四）　鈴木　公人（〃）
塩入　勤（〃三〇）　小山　長雄（〃二六）
伊藤　章行（農二）　德永　雄吉（〃）
野口繁發公（〃）　福田　英彦（蚕二九）
松本　光夫（蚕二四）　塚田　典次（〃三五）
清水　良一（〃）　外村　吉高（〃二八）
中島　正巳（〃）　牛田　孝康（〃）
秋馬　輔平（〃）　今井　喜八（〃二九）
矢川　寛一（〃二九）　中島　英男（〃）
片山　文一（〃）　今井　圭一（〃）
山中　明（〃三〇）　田島　政三（〃三一）
川島　守（〃）　柿原　修（〃）
岡野　琢也（〃三三）　柴田　正巳（〃）
中西　晶（〃）　武井　志郎（〃三三）
三輪　久利（〃二四）　竹内　寅夫（〃三五）
大原　功（〃）　佐藤　正（〃）
小林　利弘（〃）　青柳　寛（〃）
堀江　史郎（〃）　貞松廣四郎（〃）
山浦　和水（〃）　神岡　康夫（〃）
田中　一行（〃）　見田　利夫（〃）
武井　登（〃）　狭原　理宏（〃）
一義（〃）　稲垣　厚（〃）
伊藤　亮（〃）　小谷野信一（〃）
寄崎興志夫（〃三三）　小松　計一（〃）
中沢　隆明（〃）　小原　正久（〃）
三村大八郎（〃）　田村　義隆（〃）
島田　信昭（〃）　小木曾俊郎（〃）
珈米　吉美（〃）　岡田　善一（農一）
土屋　晴夫（〃）　小林　茂（〃）
久保田哲二郎（〃）　小口　敬造（〃二）
田島三喜夫（〃三三）　小川　清輝（〃）
小相沢柴夫（〃三三）　大森　武（〃）
泉水　幸信（〃三五）　塚田　良二（〃）
大塚　直人（〃二六）　大田　保（〃）
居鶴　和貞（〃）　塩沢　久延（〃）
中尾　彰良（〃）　大久保俊朗（〃三七）
内藤　俊雄（〃）　赤尾　善德（〃）
宮坂　敏美（〃）　上野　政衛（〃）
有賀藤一郎（〃）　小林　祥愛（〃）
瀬在　敬二（〃）　尾崎　守雄（〃）
小林　三郎（化一）　中本新一郎（〃二一）
山田　信（〃）　土屋　貫一（〃）
柳沢千代茂（〃）　山本　治彦（〃三三）
栗本　正知（〃）　福田　重男（〃四）
伊藤　博夫（〃）　上田　成人（〃）
小林　啓（〃五）　北沢　武（〃）
大熊　実（〃）　島崎　昭典（〃）
佐藤　和夫（〃）　三口　文芳（〃六）
見田　利夫（〃）　平野　英雄（〃）
狭原　理宏（〃）　木村　敏（〃）
稲垣　厚（〃）　島中　昭次（〃）
小谷野信一（〃）　土方　勝義（〃）
小松　計一（〃）　小林　靜夫（〃）
小原　正久（〃）　野崎　昭嗣（〃）
田村　義隆（〃）　小木曾俊郎（〃）
小木曾俊郎（〃）　岡田　善一（農一）
岡田　善一（農一）　小林　茂（〃）
小林　茂（〃）　中村　弘（〃）
中村　弘（〃）　大森　武（〃）
大森　武（〃）　塚田　良二（〃）
塚田　良二（〃）　島田　昭郎（〃）
島田　昭郎（〃）　松田　清（〃）
松田　清（〃）　宮沢　健（〃）
宮沢　健（〃）　横山　巍（〃）
横山　巍（〃）　中村　文夫（蚕三五）
中村　文夫（蚕三五）　高木　信雄（紡二五）
高木　信雄（紡二五）　小林　吉郎（〃）
小林　吉郎（〃）　水田　眞一（〃）
水田　眞一（〃）　鵜場袈裟雄（〃）
鵜場袈裟雄（〃）　藤森　敏雄（紡二四）
藤森　敏雄（紡二四）　大江　弘（〃七）
大江　弘（〃七）　西原　美登（〃二四）
西原　美登（〃二四）　福場小四郎（〃）
福場小四郎（〃）　日幡　映一（〃）
日幡　映一（〃）　松野　正（〃三七）

岩岡　辰雄（蚕三六）　井田　昭山（〃）
倉沢　正利（〃）　押金　健吾（〃）
川合　福美（〃）　把田　英司（〃）
滝沢　幸彦（〃）　大工原　卓（〃）
島田　仁治（〃）　寺沢　久夫（〃）
中島　敏夫（〃）　西山　久雄（〃）
宮沢津多澄（〃）　吉沢　彌（〃）
小林　義雄（〃）　荒井　宏明（糸三六）
久保山保雄（〃）　秋野　明（〃）
雨宮　育造（〃）　鎌春　（〃）
内山　政義（〃）　鎌田　行治（〃）
金子　保夫（〃）　小林　和道（〃）
小山　彰一（〃）　佐藤　繁夫（〃）
島崎　昭典（〃）　高木　秀夫（〃）
郡筑南海男（〃）　西沢　幸久（〃）
羽田　茂（〃）　羽田　幸久（〃）
松島　和登（〃）　山岸　茂夫（〃）
林　茂（〃）　依田　光雄（〃）
山岸　國雄（〃）　中山威四郎（〃）
吉田　昭（〃）　佐藤　正明（〃）
内海　辰三（紡二八）　関口　進（〃）
島　博明（〃）　傳田　信夫（〃）
高草木孝典（〃）　前田　昌孝（〃）
中村　智義（〃）　荒井　潤（化七）
松井　正之（〃）　巣山　剛郎（〃）
兒玉　和巳（〃）　夏井　清喜（〃）
竹内　明（〃）　長谷川　弘（〃）
成沢　亨（〃）　平野　誠（〃）
馬場　博（〃）　井出　正人（〃）
古川治十郎（〃）　小池　清雅（〃）
鮎沢　章夫（農三）　芝間晴三郎（〃）
斎藤　正三（〃）　山田　俊（〃）
手塚　久男（〃）　尾和　博行（〃二六）
榎本　健治（紡一三）　寺崎　隆夫（〃九）
植田　実（〃一七）　玉田城三郎（〃二四）
竹内　博雄（蚕二九）　小池　恭正（〃三〇）
長谷川敏文（〃三五）　高木　精一（〃三六）
黒子　浩（〃三一）　田中　庫男（〃）
長井　和明（〃）　神津　昭（〃）
小林　義雄（〃）　丸山　廣（〃）
桑原　宣治（〃）　原　相模（〃三四）
鹿森　明美（糸三〇）　木村　正美（〃）
冬泉　清（〃二六）

鈴木　泰市（〃二八）　上野　康司（〃二九）
羽生　英尚（〃三〇）　野仲　尚明（〃三一）
鹿住　周平（〃）　井上　忠雄（〃三四）
大矢　康國（〃三五）　和田　重盛（〃）
宮人　治男（〃）　髙橋　平夫（〃三六）
中野　國雄（〃）　松沢　榮（紡三）
新田　佳男（〃）　中野　六郎（〃三四）
北沢　茂樹（〃三六）　矢崎　勝（〃）
藤谷　精一（〃三九）　白川　孝治（〃）
佐々木　浩（〃三四）　森　隆吉（〃三五）
武田　撮（〃三六）　小林　弘人（〃三七）
髙橋　清司（〃）　渡多野　敏文（〃）
竹内　元良（〃三六）　越川　治文（〃）
笠原　一郎（〃）　松崎　正夫（〃）
柄沢　昌一（〃）　古屋　和夫（〃）
母袋　健一（〃）　一木　秀夫（〃）
日向　弘（〃）　德井　皎一（化一）
宮原　家候（〃五）　吉本　吉郎（〃六）
林　武（〃七）　那須野　明文（〃）
田中　英明（〃）　飯島　千春（〃）
大江　弘（〃）　堀　正文（〃）
西島　靖元（〃）　神野　博（〃）
松本　昇（〃）　松根　正典（農二）
髙沢　巧衛（〃三）　岡垣　脩（〃）
我山　義應（〃）　酒井　益次（〃）

準會費　金七円弐拾銭也（昭和十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十三年度会費）
金四円也（昭和十八、十九、二十、二十一、二十二年度会費）
金弐円四拾銭也（昭和二十、二十一年度会費）
金参円弐拾銭也（昭和十九、二十、二十一、二十二年度会費）
春原たつみ（〃二）　小泉　いよ（〃）
西沢かほる（〃）　髙沢　義應（〃）
我山　酒井　益次（〃）

清水　敏江（教六）　岡宮　靜子（〃）
上原　一代（〃八）　清水　敏江（教六）
上原　一代（〃）　若林　民子（〃）
片山　幸（〃）　横沢　時子（〃八）
横沢　クニ（〃）　宮下スミ子（〃一五）
金壱円六拾銭也（昭和二十一、二十二年度会費）　大滝　慶子（〃六）
西條ゆう子（〃）　笠井　里志（〃八）
曲尾　英子（〃）　西沢かほる（〃一二）
山岸　秀子（〃）　羽田　貞江（教一五）
若林　民子（〃）　髙橋ふじ子（教五）
金五円也寄附金納入者　上原　一代（〃）
伊藤はる子（旧教）　清水　敏江（教六）
金井　さと（〃）　上原　一代（〃）
赤岡　綾子（〃八）　村尾はつ江（〃）
廣沢　クニ（〃）　繩場　とも（〃九）
柳沢たけじ（〃）　小泉　いよ（〃）
石井　節子（〃一〇）　春原たつみ（〃二）
関崎　清子（〃）　村上けさみ（〃）
倉島　松美（〃）　村田　春子（〃）
曲尾　英子（〃一五）　倉島さち子（〃一六）
山岸　秀子（〃）　古沢　栄子（〃）
林　ハルキ（〃）　春原たつみ（〃二）
横沢　時子（〃八）　若林　民子（〃）
宮下スミ子（〃一五）　笠井　里志（〃八）
大滝　慶子（〃六）　西沢かほる（〃二）
西沢かほる（〃二）　羽田　貞江（〃）
宮原　静子（〃）　南波　トリ（旧教）
横沢　時子（〃八）　髙橋ふじ子（教五）
宮下スミ子（〃一五）　上野　しづ（旧教）
大滝　慶子（〃六）　春原　行子（〃九）
西沢かほる（〃二）　遠山　秀子（〃）
羽田　貞江（〃）　井沢　葉子（教七）
南波　トリ（旧教）　上平せきよ（〃）
髙橋ふじ子（教五）
上野　しづ（旧教）
春原　行子（〃九）
遠山　秀子（〃）
井沢　葉子（教七）
上平せきよ（〃）

金拾弐円四拾銭也　米済はじめ（〃七）
金拾壱円八拾銭也　小林　昭子（〃一三）
箱山　辰子（〃一四）
保屋野一枝（〃）
加藤そい子（〃）
小林たか子（〃）
小川原辰江（教一五）
西居　汀（〃）
吉沢　栄子（〃）
川上　郁（教一四）
池田　かよ（〃五）
清水　敏江（〃）
関崎　清子（〃一〇）
髙橋　英
金拾壱円六拾銭也　大滝　慶子（〃六）
赤岡　綾子（〃八）
西沢かほる（〃二）
滝沢ます子（〃）
宮川　静興（〃）
金拾円八拾銭也　依田　隆江（〃）
金五円八拾銭也
金五円也　花林　とら（〃）
金八円四拾銭也（寄附金）　宮下スミ子（教一五）

井上、阿形、和田、三先生退職記念品贈呈資金收支精算報告

一、井上先生に対する分

收　入

一金壱万弐千六百七拾壱円也　收入総額

支　出

一金壱万壱千七百五拾円也　贈呈額
一金九百弐拾壱円也　募集諸費
計金壱万弐千六百七拾壱円也

二、阿形先生に対する分

收　入

一金九千五百参拾円也　收入総額

支　出

一金九千参百六拾円也　贈呈額
一金百七拾円也　募集諸費
計金九千五百参拾円也

三、和田先生に対する分

收　入

一金壱万四拾弐円五拾銭也　收入総額

支　出

一金九千八百六拾円也　贈呈額
一金百八拾弐円五拾銭也　募集諸費
計金壱万四拾弐円五拾銭也

弔慰金報告（六月一日現在）

故芝荒雄氏遺児育英金
金参百円也　榊原鶴治郎
金弐百円也　杉野　壽一
金壱百円也　鶴田　定平
右合計金六百円也
累計金参千九百七拾円也

故征矢克郎氏弔慰金
金五拾円也　髙橋　英
累計金五拾円也

故河越哲男氏弔慰金
金壱百円也　西沢　良一
金弐拾円也　市瀬　武壽
右合計金壱百四拾円也
累計金弐百円也

故小井土英二氏弔慰金
金五拾円也　髙橋　英
累計金五拾円也

故小笠原安重氏弔慰金
金参百円也　大箸　政平
金壱百円也　佐藤良太郎　浜井　壽夫
飯島　正胤
右合計金六百円也
累計金八百円也

故髙島秀男氏弔慰金
金壱百円也　鶴田　定平
佐藤良太郎　岸　勝彌
浜井　壽夫　大箸　政平
飯島　正胤

故濱村長久氏弔慰金
金参百円也　菊地　六郎
累計金参百円也

故小川泰弘氏弔慰金
金参百円也　菊地　六郎
累計金参百円也

故小山寫治氏弔慰金
金參百円也　菊地　六郎
累計參百円也
故瀧川春夫氏弔慰金
金參百円也　菊地　六郎
累計金參百円也
故芝蕊雄氏遺兒資英養金
金五百円也　中山　吉二
金參百円也　福富　繁
愛知縣桑苗共同組合
金弐百円也　松岡　道也
金壹百円也　中島　茂
宮田　清藏
須田國之助
太田愼一郎
岩本　一郎　沖　濤治
辻　義男　栗原　章
松村　季美　浜井　壽夫
天野　末治
金五拾円也　篠原　平内　中根　眞一
合計金弐千五百円也

戰災者及海外引揚者見舞金

金弐百円也　湯沢　重敬
金弐拾円也　中塚みつ子
右合計金弐百弐拾円也
累計金七千五百七拾六円七拾錢也

小山田啓三君の訃

山形千曲会　栗原　章

五月二十五日午後十一時、山形市三日町十七篠田病院に入院加療中だつた親友小山田啓三君が夫人令孃の一方ならぬ手厚い看病の効も無く淋しく他界された。實だ汪洋なことはに入院せられたことも知らずに居つてしかもその日は生憎出張中であつたために遂に臨終にも間に合わなかつた様な始末で、今更同君に對して面目無きを得ない。

商賣も漸く軌道に乘つて來始めた処であつたので何うやらこれから……と思つて居た矢先の不幸！遺族の方は實に諦め切れぬ悲しみに打たれて居る、それは側の見る目も痛はしい。今や君の友情に報いるの途は大方の同情を求めて冥福を祈るの外はない。嗚呼！

然し家庭的にも全く御氣毒な至りでタヽ一人の長男は中学五年生にもなつて、それも修学旅行の際の怪我が基で死亡、續く三人の令孃も次々と病に斃れ、今は當市の洋裁学校に通学中の末子優子さん(三〇)唯一人となつて仕舞れた。適当な配偶者でもと一方ならぬ可愛がり様であつたのにそれすらも叶えられず世にも稀な神経痲痺症とか云う難病に取りつかれて淋しく逝かれた君の心情を思うと全く涙極めて眞面目で實直な君は時に同僚等と衝突したり誤解を招く様なこともあつたりして一面損な立場に置かれたりしたものだが、友情に厚く殊に教え子等に対しては限りない面倒を惜しまず、今でも本縣下の歯藥講習修了者からは隨分慕われてそれが君の最後の仕事である農機具商にどれだけ役に立つたか計り知れぬものがある。善根は矢張り何時かは花の咲くことがあるとつく〴〵思う。

次第もないと自責にかられて居る。

聞けば、いまはの際に「栗原が來て居るからこゝへ呼んで呉れ」と奥様に申された由：…今は空しい友の遺言に勘契久しうした次第であつた。

今から三昔も前の四月、當時山形の歯藥試驗場に居られた大先輩、原田兵衛さんの御照会で私をたよつて遥々入学のために上田に來られた君を駅頭に迎えたことなど思えば隨分久しい友誼を重ねた訳だ。

小林運美氏再度衆議院議員に当選す

今回の衆議院議員總選挙に当り母校出身の小林運美氏が再度目出度当選された、今後の御健斗を御祈り申し上げる。唐木田藤五郎氏も立候補されたが惜しくも落選した。

懐古して厚情に酬ゆる

井上　柳梧

顧れば大正二年六月不肖欧洲に於ける留学を卒えて歸朝し、上田蚕糸専門学校の教授に任ぜられて赴任した時は第一回の卒業生諸君が第三年在学の時であつた、針塚先生が校長であり、蚕蛾製糸の二科しかなかつた。校舎も僅かで現今の本館蚕蛾科、製糸科の建物と雨天体操場、生徒控室寄宿舎等であつた。他は皆桑園で寔に寥々たる有様であつた。併し先生は何れもそう〳〵たる方々であり将来の大なる発展が伺はれたのであつた。爾来針塚先生の偉大なる手腕によつて学校は次第に発展して大正八年絹糸紡績科が新設せられ我國絹糸紡績界に大なる貢献を爲したのである。やがて紡織科と改名せられ、紡績と織物とを併せて教授せらるゝ事となつた。開校二十五年祝賀式が挙行せられた。昭和十年には立派なる講堂が設立せられ、針塚先生の肖像並千曲会館が建設せられた。昭和十三年三月には針塚先生功成り名遂げられて退官せられ、不肖先生の後を継いだ、偉れざる校長の職、努力につぐ努力を以てしても尚及ばざる事なかつた。已に勃発した北支事変は次第に拡大して日支事変となり、更に大平洋戦争となり、学生は勤労奉仕に出征に余念なく、軍事教練に多くの時間が費された。不肖も老軀を推して学生と共に桑谷丘に度々駈足をした事もあり又蚕室氣肌に徹する北佐久の水田に増産の爲に排水溝を掘りたる事もあつた。不肖昭和二十年十二月退官する迄に学校には繊維化学科及繊維農業科が新設せられ五科となり校名も変更せられて上田繊維専門学校となり、近郊和村には廣大なる大蚕農場が設置せられて繊維動物たる、緬羊、兎等の飼育及繊維植物たる麻、亜麻、綿等の栽培が行われる様になつた。かくして学校は三十有余年を経て繊維專門学校として押すに押されぬ立派なる設備を持つに到つた。不肖在官三十二年過去を顧みて功なきと愧づるのみである、只針塚先生の遺徳をつぎ教えに従いたるに過ぎないのである。併し此間賜りたる千曲会員諸君の厚誼は実に多大で忘れる事は出來ないのである。是れ実に諸君の母校を想う眞情の現れであり、我校に見らるゝ誠に麗わしき校風である。校を去るに当り在職記念として有志諸君の多大の醵金を賜わり感謝にたえぬ所である。不肖の半生を盡したる我上田繊維專門学校の爲めに更に老軀に鞭ち余力を盡して千曲会々員諸君の御芳情に酬い度感激して居る。

茲に記して謹ねて鴻恩を感謝する次第である（個々に御礼狀を差上ぐべき処ですが会報紙上を以て略させて戴きます）

御挨拶

拝啓　陳者今般小生の退職に対し多大の記念品御贈與被下有難く拝受仕候　早速有志各位の御芳情に対し一々御礼狀差上ぐ可きの処時節柄御勘めに従い乍略儀紙上を以て厚く御礼申上度如斯に御座候

昭和二十三年十月一日　拝具

阿形　輝司
上田市鷹匠町

千曲会員　有志御中

追而　小生も御蔭様にて老來益々健在晴耕雨読に消光罷在候間乍他事御休心被下度候

初代校長名誉教授　針塚長太郎先生薨去さる

針塚先生には九月二十一日午後二時心臓痲痺のため群馬縣の御自宅に於て逝去なされた。御年七十九才であられた。

衷心より哀悼の辞を申し上げ御冥福を御祈念申し上げる。

急逝の報に接し千曲会より溥生俊興教授本学部代表として学部長は方止むを得ぬ会議のためかけつけることが出來なかつたので佐藤利一教授が代理として直ちに御伺い申し上げた尚葬儀には学校側として伊藤学部長、佐藤利一教授、佐藤春太郎教授千曲会代表として溥生俊興教授が出席して御弔意を申し上げた。

會員動靜

昭和二十四年九月一日現在

（昭和二十三年六月一日現在ニテ發行サレタ名簿改訂ヲ含ム）

篠田平三郎（蚕一）　三重縣耕地課（津市）
清水達太郎（蚕一）　千葉縣市原郡瀧津村潤井戶三六四
菅原勇治（蚕一）　自宅
松野　正一（蚕一）　昭榮製絲大磯蚕種製造所長（神奈川縣中郡大磯町）
箕輪　貞三（蚕一）　自營
高須　兵司（蚕一）　死亡
森　千城（蚕一）　自營
矢沢茂登一（蚕一）　丸伊物産株式會社（東京都中央区大傳馬町二ノ三）
唐沢　正平（蚕二）　埼玉蚕糸株式會社（東京都中央区銀座西二丁目一番地　電話京橋一五一—一五四）
坂田　榮雄（蚕二）　從來通り（福井市佐佳枝上町一六八）
飯島　正胤（蚕二）　自營
北沢　茂（蚕二）　長野縣蚕糸會館（長野縣蚕業試驗場内）
吉山　宗八（蚕二）　自營
浜非　靜夫（蚕二）　岡部蚕絲研究所（前橋市紫町九四）（住）　靜岡縣周智郡森町仲町三四ノ六
矢島佐藤良太郎（蚕二）　日本蚕糸業會福井出張所（福井佐佳枝中町三四八組會館内）（住）　岡崎市戸崎町上リ場西二九
岡崎剛（蚕二）　蚕種協同組合千曲社蚕種製造所長（住）　小縣郡蟲里村大字恩
坂田　榮雄（蚕三）　東洋紡績營業部（大阪市北区堂島浜通り二の八）（住）　兵庫縣神崎郡寺前村宮野
稻石　佐一（蚕三）　死亡
久保田正樹（蚕三）　自營
立岩　笑保（蚕三）　東京文理大學講師、普平高原生物研究所主任、本校數授（上田市新參町）
小林　勝次郎（蚕三）　自營
志田傳也（蚕三）　東京女子大學講師、普平高原生物研究所主任、本校數授（上田市新參町）
中沢　誠政（蚕三）　茨城縣立第一高等學校（茨城縣結城郡結城町）
中山　鑑一（蚕三）　山形縣立山添高等學校長（住）　山形縣東田川郡齊村字齊藤川原
中尾小太郎（蚕四）　渡部五衛門方
野崎　清（蚕四）　日本蚕種協會（東京中央区京橋三ノ二片倉ビル）（住）　東京都杉並区荻窪町一ノ一六八
曾山　直高（蚕四）　松本市北深志口張町五五八
小林　啓介（蚕四）　小縣郡東塩田村
峰村　謙命（蚕五）　金沢市長町五番町
荻原　孫三（蚕六）
櫻井　吉利（蚕六）
金兒　文夫（蚕六）
小山田序造（蚕七）
櫛木　武光（蚕七）
山本岩三郎（蚕七）　鐘紡績東京事務所（東京都品川区大井鐘町三四七五）（住）　神奈川縣川崎市二子三二一
前田　龜雄（蚕七）　株式會社第一商行（片倉ビル五階電話京橋八二二三）（住）　東京都澁谷区豐沢町六五　電話三田（45）〇七九六
石川縣繭檢定所長（金沢市）　金沢市備中町五〇ノ五

齊藤　鳳一（蚕八）　茨城縣立眞壁高等學校（茨城縣眞壁郡眞壁町）
高橋　氾一（蚕八）　栃木縣立宇都宮農業高等學校（宇都宮市今泉）
小林　繁（蚕八）　天龍社（下伊那郡龍丘村）
石原　司（蚕八）　金沢市早道町一一五
岩瀬　義夫（蚕八）
西　三（蚕九）　京都市左京区松ヶ崎堀町一八
門平　潤一郎（蚕九）　京都大學食糧科學研究所敎授（京都大學農學部内）
金崎　種親（蚕九）　埼玉蚕業試驗場長（熊谷市）
原田　亀英（蚕九）　亀山蚕種株式會社（三重縣亀山町）
狹原　幸胤（蚕一〇）　福島縣立大槻高等學校（福島市曾根田天神前二小野崎方）
尾藤　省三（蚕一〇）　農林省蚕絲試驗場（東京都杉並区高円寺）　農林省蚕絲試驗場總務課（東京都千代田区有樂町一ノ七）
内田　秀次郎（蚕一〇）　昭榮製糸保原蚕種製造所（福島縣伊達郡保原町）
母袋　良平（蚕一〇）　長野縣蚕業蚕種同組合（長野市縣町蚕業會館内）
池田　正五郎（蚕一〇）　從來通り（住）　札幌市北四條西四丁目蚕業取締所官舍
水城　孝男（蚕一一）　穗高農業高等學校（南安曇郡穗高町）（住）　松本市神田区
結城　鎭男（蚕一一）　第一工業學校（福岡市藤崎）（住）　福岡縣早良郡金武村乙石
平石　兵衛（蚕一一）　縣立安塚農學校（新潟縣東頸城郡安塚町）
宮前　邦雄（蚕一一）　農林省蚕糸局蚕業課（住）　東京都世田谷区代田二丁目六ノ三　電話松沢三六五九番
小泉　清明（蚕一二）　岐阜大學農學部（岐阜市外中村）
若林　茂一（蚕一二）　坂城農業高等學校長（埴科郡坂城町）（住）　屋代町田町
内川　勇（蚕一二）　愛媛青年師範學校（松山市御幸町）（住）　松山市御幸町二七一官舍
宮沢　（蚕一二）　蚕糸業同業組合中央會（東京都中央区京橋三ノ二片倉ビル）　東京都世田谷区二ノ二九八
金子　幸一（蚕一三）　死亡
龍田　雅弘（蚕一三）　山形縣蚕業取締所山形支所（住）　山形市東原町西北二條
三輪　貞德（蚕一三）　長野縣工業試驗場（松本市）
矢島　良雄（蚕一三）　昭榮製絲福島工場（福島縣保原町）
大崎　征吾（蚕一四）　小埼玉縣蚕業取締所（埼玉縣本庄町）
竹内　善太郎（蚕一四）　松原蚕業高等學校（上田市）
幸　彌（蚕一四）　石川縣蚕業取締所（住）　小縣郡西塩田村
前沢　康雄（蚕一四）　茨城縣立農業高等學校（筑波郡上郷村）
山下　忠雄（蚕一五）　農林省蚕糸局蚕業課（東京都中央区日本橋室町一ノ四）
櫻井　弘吉（蚕一五）　株式會社扶桑社（東京都中央区日本橋室町一ノ四）
（清家）　丸子蚕業高等學校西内分校（小縣郡西内村）（住）　小縣郡西内村
安川　重明（蚕一六）　門司市猿喰地藏面
藤木　衛（蚕一六）　松本市伊勢町
佐雄（蚕一六）
北原　喜三（蚕一六）　長野縣蚕業指導所小縣支部主任（小縣郡縣村）（住）　小縣郡浦里村
工藤　見吉（蚕一六）　蚕業技術指導所（北埼玉郡岩瀨村下岩瀨五五三）（住）　埼玉縣忍町忍一〇三
金沢　勇（蚕一七）　愛媛縣蚕業技術指導所（住）　愛媛縣周桑郡三芳村
北條　右衛門（蚕一七）　蚕種協同組合千曲社（住）　埴科郡杭瀨下村
内苑　成一（蚕一七）　上田染谷丘高等學校（上田市）
尾崎　利雄（蚕一七）　埴科地方事務所蚕糸課長（住）　小縣郡中塩田村舞田
橋本　直人（蚕一七）　高山高等學校（高山市花里）（住）　福岡縣大牟田市新町五二
小野　敏夫（蚕一七）　千代田自動車工業社（東京都千代田区神田佐久間町河岸一四）
竹内　博（蚕一七）　戰死
河田　柔一（蚕一七）　戰死　下高井蚕業技術指導所（下高井郡中野町）
長野縣蚕業指導所更級支所長（稲荷山）

水野敏夫（蚕八）長野県蚕業指導所（中野町）
市村志眞衛（蚕八）新潟県蚕糸課
山本実市（蚕八）上高井郡穂高村）
坂口正信（蚕八）高等学校（下高井郡穂高村）
武雄（蚕八）長野県蚕糸協同組合蚕種部（長野市蚕業会館）
中村（蚕八）下高井郡豊岡村中学校長（下高井郡豊岡村）
善雄（蚕八）小県農業高等学校（小県郡武石村）
和田敦（蚕八）盛岡市（盛岡市任王下台七三）
四郎（蚕八）岩手県蚕糸課（盛岡市）
辻本（蚕八）小田後月地方事務所経済課（岡山県笠岡町）
赤羽（分林）是譲（蚕九）三重県蚕糸課（津市）（住）津市八町南四丁目二六ノ一一
眞晉（蚕九）池内（蚕種協同組合高原社（松本市）
耕平（蚕九）小平
豊（蚕九）細川
史郎（蚕九）長野県蚕糸課（長野市大門町）
正保（蚕九）丸子実業高等学校長久保新町分校主任（住）小県郡長久保新町
宮入（蚕九）自営（住）埴科郡五加村上徳間
武石村中学校（小県郡武石村）
上小蚕業協同組合（上小地方事務所蚕糸課内）（住）小県郡西内村戸羽
神栄生糸株式会社上田研究所（上田繊事内）（住）上田市諏訪形七二三
池内（蚕九）
小平（蚕九）
細川（蚕九）
町田遠山（蚕九）
宮入（蚕九）
福地進（蚕九）全国乾繭組合（東京都中央区京橋三ノ二片倉ビル内）
白川孝昌（蚕九）片倉製糸紡績株式会社（徳島市外）
宮沢岬（蚕九）福井県蚕業試験場（福井市鍛冶町）
桐生義雄（蚕九）旭川蚕糸株式会社（旭川市三区番外地旧偕行社）
竹内博文（蚕九）上組農業高等学校（新潟県宮内町）
加藤晴治（蚕一〇）都鐘紡株式会社（大阪市都島区友淵町一一三）
寺島一彰（蚕一〇）有賀太郎（蚕一〇）万屋代中学校長（埴科郡屋代町）
池田俊郎（蚕一）長野県蚕糸課（長野市）
石塚亮保（蚕一）岩手県蚕糸課（盛岡市）
宮本喬（蚕一）自営（住）埴科郡五加村上徳間
小林輝夫（蚕一）全国販売農業共同組合連合会資材部（東京都千代田区神田三崎町一ノ二）
大槻四郎（蚕一）丸子実業高等学校和田分校（小県郡和田村）
新野元治郎（蚕一）全国蚕業販売農業協同組合連合会（東京都中央区銀座西三丁目菊政ビル）
夾城（蚕九）静三（蚕九）夾城蚕糸学校（水戸市）水戸市裡南町三七二
省三（蚕九）
晴治郎（蚕一〇）大阪市都島区友淵町一一三
片倉工業沼津蚕種製造所（沼津市外三岡町）
小県蚕糸高等学校（上田市）
長野県丸子実業高等学校長久保新町分校　長久保新町
片倉蚕業研究所（埴科郡屋代町）
加藤物産株式会社福岡支店長（福岡市上新川端町一）
太郎（蚕一〇）
正廣（蚕一〇）
貞雄（蚕一〇）
正人（蚕一〇）
彰太郎（蚕一〇）
晴治郎（蚕一〇）

池田俊郎（蚕一）長野県蚕糸課（長野市）
石塚亮保（蚕一）岩手県蚕糸課（盛岡市）
宮本喬（蚕一）自営（住）埴科郡五加村上徳間
小林輝夫（蚕一）全国販売農業共同組合連合会資材部（東京都千代田区神田三崎町一ノ二）
大槻四郎（蚕一）丸子実業高等学校和田分校（小県郡和田村）
新野元治郎（蚕一）全国蚕業販売農業協同組合連合会（東京都中央区銀座西三丁目菊政ビル）
瀬河富正（蚕一〇）片倉蚕業研究所（埴科郡屋代町）
牧島韋吾（蚕一三）丸子実業高等学校（小県郡丸子町）
小出楢五郎（蚕一三）宮城県刈田蚕業技術指導所（住）刈田郡白石町南小路五九ノ一
人見平作（蚕一一）農林省鹿児島資材調整事務所
上原恒一郎（蚕一一）蚕糸絲原料課（住）小県郡神科村長嶋
傳田靜夫（蚕一一）不二蚕絲株式会社蚕種製造所（埴科郡埴生町）（住）上田市松尾町
西田正一（蚕一一）長野県蚕業指導所北安曇支部（北安曇郡池田町）
牧島韋吾（蚕一三）丸子実業高等学校（小県郡丸子町）
小出楢五郎（蚕一三）宮城県刈田蚕業技術指導所（住）刈田郡白石町南小路五九ノ一
西沢正一（蚕一一）昭栄製糸株式会社蚕種製造所（神奈川県大磯町高麗）
大山繁（蚕一一）不二蚕糸株式会社中込工場（北佐久郡中込町）
小松茂男（蚕一一）東洋紡績山林事務所（松本市蚕玉町）
鈴木大柳町九三）
白土孫七郎（蚕一二）三菱鉱業研究所片倉蚕業鉱田坑（住）福岡県飯塚市鉱田三八
藤田四郎（蚕一二）日本レーヨン株式会社東京出張所（東京都中央区槇木町三一）
酒包景雄（蚕一三）東吉高等学校（鹿児島県姶良郡吉田町）（住）鹿児島県姶良郡志布志町
青木幹夫（蚕一三）自営（静岡市日吉町一ノ五）
國島正（蚕一三）安八高等実業学校（大垣市禾森町）（住）大垣市青柳町
岡庭武治（蚕一三）群馬県蚕業協会（住）前橋市外上細井六〇四ノ一
北原至（蚕一三）改正宮島
奥村忠治（蚕一三）日本蚕種協会（東京都中央区京橋三ノ二片倉ビル）（住）東京都杉並区永福町二六七
田沢横沢（蚕一三）輝夫（蚕一三）自宅（埴科郡雨宮三六）
関山浦（蚕一三）正雄（蚕一三）亀山製絲（伊勢崎出張所長（群馬県伊勢崎）
久保田不二夫（蚕一三）山梨県蚕業株式会社（甲府市）
近藤二郎（蚕一三）埼玉蚕業株式会社高崎工場（高崎市飯塚町）
川中貞次（蚕一三）絲引中学校（兵庫県飾磨郡絲引村）（住）姫路市飾磨区小瀬町一九一
山浦忠（蚕一三）片倉蚕及關岩村田出張所（北佐久郡岩村田町）
竹内好武（蚕一三）農林省蚕糸局改良課（東京都中央区日本橋三ノ二片倉ビル）
西沢政人（蚕一三）昭栄製糸株式会社小山工場（栃木県小山町）
川谷静一郎（蚕一三）佐賀農蚕高等学校（佐賀県佐賀郡春日村尾寺）
馬場順一郎（蚕一四）南佐久農蚕高等学校（南佐久郡臼田町）
玉田城三郎（蚕一四）川越農業高等学校（川越市）（住）浦和市本太町二四四九
多田忠正（蚕一四）小県蚕業高等学校浦里分校（小県郡浦里村）
小柳源一（蚕一四）上高井農業高等学校（上高井郡須坂町）
戸塚旧二木（蚕一四）埼玉蚕業株式会社松山工場（埼玉県比企郡松山町）
三雄（蚕一四）北安曇農業高等学校（北安曇郡池田町）（住）東筑摩郡中川手村塔之原
稲弘（蚕一四）片倉蚕種製造所（福岡市箱崎町）
須坂農業高等学校（上高井郡須坂町）（住）長野市大字中越二〇
岩村田農業高等学校（北佐久郡岩村田町）
保夫（蚕一四）
祐三（蚕一五）共同蚕業株式会社（東京都中央区日本橋本町四ノ一）
全（蚕一五）棒村中学校（三重県鈴鹿郡椿村山本）
良一（蚕一五）勤務同前（住）東京都麻布区本村町一四六
進（蚕一五）丸井加工株式会社（東京都杉並区荻窪三谷町六五）
博隆（蚕一五）農林省福岡蚕糸調整事務所（福岡市筑石町二）福岡市箱崎二股瀬譯町

（以下次号に続く）

編集後記

会報も続いてもつと早く発行致しまして会員各位に母校の大学昇格の経過等を御知らせ申し上げねばならなかつたのでありますが、單科大学昇格問題が一喜一憂の経過を辿つて居りました事が大きい問題で如何に眞相をお傳えして良いか甚だ疑問でありましたのでもう少し明白な見透しがついてからと思つている中に遂々今日に至つてしまいました。

而して單科大学昇格は希望はなくなり遂に信州大学の繊維学部として発足する事になりましたので従来迄の原稿も一應整理の必要に迫られ萬々その仕事をして居りましたのであります。

加うるに本会報編集の責任者町田委員の内地留学、盲腸の手術等により一層と会報が遅れてしまいまして誠に申し訳ありません。

今後は斯く遅延することなく速やかに母校の状勢を会員各位にお傳えしたいと考えて居ります。

何卒悪しからず御諒承下さいまして本会報の益々に絶大なる御支援を賜りたく御願い申し上げます。

次第に気候も悪くなりまする故会員各位の御健祥を御祈念申し上げて居ります。

（九、一八）